



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	[紹介]『北海道帝国大学新聞』掲載広告の商店一覧(1926-1945年)
Author(s)	中村, 美樹子; 杉山, 和香奈
Citation	北海道大学大学文書館年報, 15, 193-239
Issue Date	2020-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/78185
Type	other
File Information	7.pdf



< 紹 介 >

『北海道帝国大学新聞』掲載広告の商店一覧（1926-1945年）

中村 美樹子・杉山 和香奈

1. 商店一覧（1926-1945年）

店名	所在地	記事初出し	取扱い商品等
あ行			
相沢商会	札幌市 南1西3 (1931.02.02以降)	1926.05.14	種苗 書籍『農芸水産百科典』(1931.02.02以降)
愛信堂札幌支店 ／愛信堂支店	南1西4	1928.05.21	菓子(洋生菓子、栗まんじゅう、大正まんじゅう、カステラ、サブレ、フィンガー、パサンス、果実ようかん)
青い鳥	南6電車停留所前	1928.02.06	喫茶(サンドイッチ、蜜豆、フルーツポンチ)、洋酒
青い鳥喫茶店	南アカシヤ街(円山移動部出張)	1928.05.07	喫茶
青木写真館	南1西1-7	1932.10.18	写真
青山温泉不老閣	函館本線昆布駅	1928.11.19	温泉
アカシヤ楽器店 ／アカシア楽器店	南4西3(薄野十字街)	1927.03.18	洋楽器(ヴァイオリン、マンドリン、ギター、チェロ)、楽譜、音楽書
アカシヤ喫茶店	大学病院前	1932.05.02	喫茶(紅茶、コーヒー、ケーキ)
アカシヤ書店	南1西9	1933.10.03	新刊・古書籍、雑誌、印刷、製本
赤塚洋服部	狸小路3角	1929.04.15	紳士服(三つ揃い、背広服、ズボン、コート、オーバー)、学生服(帝大服、オーバー、マント)、生地(黒絹、黒セール) ☆大学指定特約店
赤塚毛布部	狸小路4角	1930.06.16	毛布(旅行用、寝具用、敷布用、純毛) ☆大学指定特約店
赤塚洋品部	狸小路3角	1930.11.03	防寒品、学生服(オーバー、マント)
阿寒湖荘	釧路国舌辛村字湖畔市街	1936.05.05	温泉旅館
秋田屋旅館	医工科大学前	1931.10.05	下宿
秋月菓子店	大学正門前	1929.10.07	菓子(洋生菓子、季節向上生菓子)
秋月喫茶部／㊟	大学病院前	1929.05.20	喫茶(ケーキ、コーヒー、フルーツサラダ、蜜豆、ドーナツ、汁粉、ぜんざい)、中華そば
旭川新聞社	旭川市	1932.10.18	新聞『旭川新聞』
旭商会札幌出張部	南2電車通	1927.05.18	洋服・洋品(二重廻し、マント、コート、改良モジリ、オーバーセーター、毛布、角巻、洋傘)
旭電気売店	北3西3	1933.05.23	電気器具 ☆大学指定商店
浅見羅紗店洋服部 ／浅見ラシャ店／浅見羅紗店洋服調製部	南1西5電車通	1927.04.22	洋服(学生服、霜降小倉制服、フロック、モーニング、背広、オーバー、トンビ、外套)、布地(黒サージ、黒綿、ラシャ洋服地、背広地、オーバー地、学生服地、婦人服地、子ども服地) ☆大学制服御指定
東おでん	南3西3	1929.06.03	和食(おでん、汁粉) ☆文武会園遊会御用
アソツ屋商店(本店) ／アソツヤ眼鏡店	南2西5狸小路日活館隣	1927.04.22	眼鏡 ☆共済部指定店
アソツ屋商店(支店)	狸小路2	1927.04.22	眼鏡

店名	所在地	記事初出日	取扱い商品等
あづま	狸小路6丸京博品館階上	1932.12.10	和食(肉鍋)
阿部写真館	大通西2	1927.04.22	写真
安部帽子店 ／安倍帽子店	南1停車場通十字街 ／南1西3	1927.03.18	帽子(内外中折帽子、制帽、帝大型角帽子、麦わら一文字、烏打帽、スキー帽、子供帽)、洋服・洋品(ワイシャツ、カラー、カフスボタン、靴下、ネクタイ、メリヤス) ☆大学指定特約店
有田栄本店新設販売所	北3西3停車場通	1932.05.02	自転車
有田本店 ／有田栄本店	北7西4大学通	1930.09.15	自転車 ☆大学御用
安藤洋家具店	南5西10	1930.09.15	家具(分解卓子、分解椅子)
アンドリュース商会 札幌出張所	北11西4大学通 ／大学通北10	1927.11.21	工業用品(機械、工具)、輸入品(印刷器、ファイル、宝庫、油脂調帯、機械、工具)
イーボン 一筒倶楽部	大学病院前	1931.10.05	麻雀
池内金物店	南1西2	1933.10.17	クロンボ豆炭ストーブ
池津洋服店	南3西4	1927.12.05	洋服
勇寿司	狸小路4	1932.11.15	和食(寿司・小料理) ※立喰
石川商店	停車場通拓銀前	1929.07.01	北海みやげ(アイヌ細工、名木細工、名産食料品、毛皮、指物、挽物細工、郷土美術品)
石坂金次郎薬局	北7西6角	1927.11.07	化学用薬品
石田	北11西2南向	1929.04.15	下宿
石田屋商店	北3西3エンゼル館前 ／北3西3道庁正門前 ／北3西3丸善隣	1927.05.18	新鮮果実(リンゴ、日面紅、ブドウ、カキ、ミカン、台湾バナナ、スイカ、ネーブル、ナシ)、食料品、北海道名産、札幌土産、進物用籠詰 ※発送 ☆文武会園遊会御用、北大共済部指定
石田屋果実店 (1937.04.06以降)			
石積売炭所札幌出張店	北7西2	1927.11.21	炭、コークス、洗粉炭、クロンボ豆炭ストーブ
石積売炭所本店	小樽市稲穂町西6	1927.11.21	炭、コークス、洗粉炭
石綿支店	南2停車場通	1927.04.22	時計、眼鏡
維新堂書房 ／維新堂書店	南1十字街／南1西4	1926.05.14	書籍、文房具(絵葉書、ノート) ☆北大指定商店、クラークノートブック取扱い
一正亭	大通一銀横	1930.10.06	和食(肉鍋)
一条薬局	南1西4	1927.05.18	薬、化粧品、カメラ、写真材料 ☆共済部指定
一戸清蔵	北14西4-2(大学病院前)	1927.09.18	歯科医院
市村染舗	大通西1	1932.10.18	印入、手拭、タオル
五日市洗濯店	北9西4	1933.05.23	洗濯(洋服、和服) ☆北大指定商店
一貫堂眼鏡店	大学正門前通 停車場通北1物産館前(1930.05.05以降) 大学通北7西5(1932.08.02以降)	1927.03.18	眼鏡
一進堂商店	南1十字街	1927.05.18	時計、眼鏡、蓄音機、レコード、コンサートルーム
一進堂眼鏡店	南2西3狸小路停留所前	1928.02.06	眼鏡
一誠堂書店	北1西3(停車場通) ／北大通西3	1932.06.21	新刊・古書籍(参考書、教科書、和漢書)
一誠堂書店支店	北8西4大学正門前	1933.11.07	新刊・古書籍(参考書)
伊藤組事務所	札幌駅前	1928.01.09	
伊藤毛皮店	南1西7-2	1930.10.06	毛皮(輸出入、製革加工、染色剥製、生皮)
伊藤撞球場	狸小路西5北向	1932.09.20	撞球、麻雀
いなりや	南3西2	1929.06.03	和食(寿司) ☆文武会園遊会御用

店名	所在地	記事初出日	取扱い商品等
今井呉服店／今井 ／㊦今井	[南1西2]	1926.09.27	百貨店
今井呉服店食料品部	[南1西2]	1931.11.16	石狩名産新巻鮭
今井呉服店ラジオ部	南1西2	1928.10.15	ラジオ
今泉撞球場	南3西5西向	1932.10.18	撞球、家具製作、玉台製作
いろは肉店	札幌劇場隣／南4西1 ／南3西1	1928.09.17	和食(肉鍋) ※宴会可能
岩井靴店修繕部	予科講堂内	1936.04.07	靴(学生靴、紳士靴) ☆文武会共済部指定商店
岩井信六	南1西2	1926.05.14	靴(ホワイシシューズ、ゴム長靴、オーバーシューズ、御大典用靴、革靴、編上靴、上靴、ゲートル、学生靴)、運動靴(野球、ランニング、フットボール、テニス、ゴルフ、スキー、スケート、マラソン、乗馬、登山、ラグビー、バスケット、ハイキング)、靴附属品(ワックス、靴袋) ☆共済部指定店
岩井靴店本店 (1927.05.18以降)			
岩井写真館	南2西3上野写真館跡	1929.06.03	写真
岩泉	小樽都通	1937.01.12	レコード
岩泉商会蓄音器部 ／岩泉蓄音器商会	北7西3	1931.02.02	レコード、蓄音器 ☆北大寮歌レコード
岩泉蓄音器商会薄野 支店	薄野電車停留所前 ／薄野十字街	1931.02.23	新品・中古品蓄音器、レコード ☆北大寮歌レコード
岩崎測量製図器店	北5西5	1936.11.17	製図機械、文房具、測量機械、製図用具 ※諸官 庁御用
岩佐電気商会	北1停車場通	1927.10.18	電気器具・材料、電気ストーブ ☆大学御用達
岩佐寅太郎商店 (1930.10.20以降)			電気工事(1931.05.18以降追加)
いわしや薬局	札幌駅前通	1932.08.02	薬品、衛生材料、処方調剤、体温計、写真材料、 化粧品
岩手屋	北1西3	1930.06.16	旅館
ウーファ映画北海道支 社大橋商会		1932.10.18	映画
上口洋服店	南1西4十字街	1927.04.22	洋服
上田屋	停車場前	1929.07.01	登山用品(リュックサック)
上野写真館	南3西3 三吉神社隣／南1西8 (1931.10.05以降)	1928.01.09	写真、撮影(夜間電光撮影、出張撮影)
上野写真館支店	南7西7電車通	1927.07.09	写真
上原第四支店	南3西9	1929.05.06	理髪
植松専門店 ／植松万年筆店	狸小路4	1933.11.07	万年筆
内田写真館 ／R.K. UCHIDA ART PHOTO STUDIO	南1西5角	1932.06.21	写真、撮影(アルバム、卒業・学部進入学記念)、フ ォトスタジオ ☆北大新聞部写真班員 内田喜蔵
梅沢時計店	南1西4	1930.07.07	時計(置時計、腕時計) ☆大学指定
梅屋運動具店	小樽市稲穂町	1930.12.01	スキー、スキー用具
ウララ	十字街／南3停車場 通	1935.04.16	喫茶(コーヒー)、音楽
紫煙荘 (1936.09.08以降)			
永楽園	北1東8(佐藤前北大総 長邸より東へ1丁南)	1932.02.01	新築貸間、植木
永楽軒	南4西3	1928.11.05	中華料理、洋食 ※宴会可能
エジプト		1929.06.03	喫茶、洋酒

店名	所在地	記事初出日	取扱い商品等
エスワイ洋服店 ／ESUWAI & CO. ／ESUWAI & KOM	南1西8-3	1932.09.20	洋服
エルムの鐘	南1西6	1932.08.02	喫茶
エロ	鈴蘭街	1930.10.06	キャバレー
エンゼル館	[北2西3]	1928.10.01	映画(洋画、邦画)
オアシス	同窓会館南隣	1927.04.22	喫茶(飲料、お菓子)
及川商店	北6大学通	1930.06.16	果物
近江堂	北8西5大学正門前通	1927.11.21	書籍、紙文具、化粧品、雑貨
近江堂辰山商店 (1928.01.09以降)	／北7大学通		
近江堂文具店	大学通北7	1926.06.17	文具(大学ノート)
大谷家	駅前／[北4西3-1]	1930.06.16	和食(うなぎ)
大谷時計店	南1十字街角	1928.06.04	時計
太田屋クツシタ店	狸小路4	1928.10.01	靴下
大通書店	停車場通北1西3 ／大通西3電車通 ／北1西3-4	1930.02.03	古書籍・雑誌(参考書、学会報、紀要、北海道の 歴史的研究資料) ☆北大各学科参考書取扱い
大通書店古本仕入部	北1西3停車場通	1931.10.19	古書籍(参考書、和漢古典、錦絵、法帖、写本、 北海道に関する錦絵、古地図、札幌博物学会会 報、北海道庁報告書、各農事試験場報文、北海道 帝国大学紀要、絶版図書、札幌区史、北海道史、 郷土関係書) ☆北大関係書取扱い
大星事務所	南7西1-13	1928.01.09	木材
大室洗布所	南大通西6	1938.06.28	クリーニング ☆共済部指定
大森歯科医院	北7西4	1927.09.18	歯科医院
大山与一郎	南2西2	1934.05.21	自転車 ☆大学職員特別奉仕、共済部指定商店
大山商会 (1936.06.09以降)			
岡崎商会蓄音器部	大学正門前	1932.05.17	蓄音器、レコード
岡田屋本店	薄野／[南4西4-1]	1928.02.06	中華料理(中華そば、シュウマイ)、和食(肉鍋)、 洋食 ※宴会可能
おきた	北1西2東病院横	1930.05.24	和食(おでん、汁粉) ☆文武会園遊会御用
沖電気札幌出張所	北1西3-3／北2西3-3	1927.05.18	電話、電鈴、避雷針、ラジオ、電気工事
翁おでん	狸小路7北向	1934.02.20	和食(おでん) ※リレー式サービス実施
小熊家具店／小熊幸七 ／小熊タンス店	南2西5／狸小路5(日活 館前)／南3西5	1933.05.23	家具(和洋家具、学習用) ☆共済部指定店
お好み亭／お好亭 ／オ好亭	南1西4(新川端) ／南1新川通	1927.04.22	喫茶・レストラン(紅茶、洋食、アイスクリー ム) ※小宴会・茶話会利用
押田館	南7西11	1931.10.05	下宿
お嬢さん	鈴蘭街西4	1932.04.04	喫茶、洋酒
小樽新聞社	小樽市港町	1932.10.18	新聞『小樽新聞』
落合繁吉商店	北6西6	1927.05.18	工華大理石 ☆帝国大学・諸官庁御用
小原商店	南2西4電車通角	1927.06.13	藤製品(藤椅子、藤寝台)
小原銃砲店	南2西4角	1930.01.20	鉄砲(空気銃、猟銃)、猟具
於福堂喫茶部	十字街	1929.09.02	喫茶(甘栗、汁粉)
お坊ちゃん ／OBBOCHAN	狸小路西4／鈴蘭街4	1929.06.03	喫茶(蜜豆、スイートポテト、シュウクリーム、 スイートポテト、アイスクリーム)、食事(肉ま んじゅう)、飲料(コココーラ、ソフトドリンク、 グラス・カスタード、アクメ、アルドス・レモネー ド)、洋酒(エメラルド・アイル、グリーン・リバー)
オリエント	南2新川端／南2西5	1927.12.05	ウサギ料理 ※小宴会可能

店名	所在地	記事初出日	取扱い商品等
オリンピック倶楽部 か行	南3西4	1937.05.11	喫茶、食堂 ※洋楽レコード演奏、大ホール
開林堂田中製本所 ／田中製本所	北7西5-5植民学校横	1932.09.20	製本 ☆北大御用
学生向け借家	[山鼻行啓通電車停留 所附近]	1927.04.22	地方学生向け借家
笠原家具店 ／笠原長治	南3西1	1933.05.23	和洋家具 ☆共済部指定商店
梶浦写真館	北1西2	1928.01.09	写真、撮影(集会写真、卒業記念、ポートレート、 学部新入・就職写真、グループ写真、出張夜間撮 影) ☆北大新聞部写真班
	狸小路6／鈴蘭街6 (1932.08.02以降)		
加島屋	南3西3	1927.04.22	食料品(和洋酒、缶詰、洋菓子)、洋食器 ※宮 内省御用達
[柏]木石蔵	北7大学通	1933.10.03	蓄電池、酸化銅充電器、ランプケース
瓦斯会社	北4東5	1927.11.21	ガスストーブ、ストーブ附属品、コークス
瓦斯会社陳列所	南1西2	1927.11.21	ガスストーブ、コークス
片岡	大通東1	1927.05.18	酒(清酒、大阪各銘酒、札幌ビール、白玉ホワイト ワイン)、味噌、醤油
克美寮	薄野十字街	1937.10.26	洋食、喫茶 ※ホールあり
カツヤ三島商店	南1西4／十字街	1927.04.22	洋服(白ズボン、セーター、毛メリヤス)、運動 服(スキー服)、運動具
カツヤ (1929.05.20以降)			
カツヤ運動服装専門店 (1931.06.01以降)			
加藤時計店	北1西8	1933.05.23	時計 ☆北大指定商店
加藤物産商会	停車場前 ／[北4西4-1]	1930.09.15	内外珍果実、札幌みやげ、菓子食料品
金垣度量衡店	南1東2(電停前)	1930.10.06	度量衡器、計量器、製図器、金庫、計算尺
金沢肉店	狸小路2	1930.09.01	和食(肉鍋) ※会合可能
カナリヤ	師範学校前	1928.01.09	喫茶(アイスクリーム)
カフェエエルム	[南4西3-10]	1928.11.05	カフェー
カフェエキネマ	南4西4新川角	1929.08.10	カフェー(洋食)
カフェエ三条	南3西3([実]淋跡)	1929.11.18	カフェー
カフェエブラジル	薄野米久北隣	1930.10.20	カフェー(ブラジルコーヒー)
カフェエボルガー	南1西2	1929.01.02	カフェー(洋食、菓子)
カフェエモスコ	南1西2丸井呉服店よ り南へ半町	1928.11.19	カフェー(洋食) ※フランス風料理
かめい	北1西4-2	1937.10.12	婦人子供服地、服飾用品雑貨
亀屋食品店／亀屋食料 品店	薄野／[南4西4-17]	1927.03.18	喫茶(洋菓子、アイスクリーム、サンドウィッ チ) ☆文武会園遊会御用
亀山商会	北8西5大学正門隣	1927.05.18	理化学器械・用品、医療器具、薬品、剥製 ☆帝国大学御用
カメラハウス	北1西3／北2西4 ／停車場通北1西5	1928.01.09	写真(現像、焼付、引伸)、カメラ、活動写真機、写 真材料(パテベビー)
加本電気商店	北4西5	1935.01.15	電熱器、照明器具、工事
カラタ洋家具店	南3西4いく代前	1928.02.20	家具(洋家具、住宅用、事務用、学習用、書棚)、装 飾、学校器具(実験台)
カラタ洋家具店工場	南4西5	1936.01.14	洋家具、家具装飾品
川中靴店	南3停車場通西側 ／南3西4角／南3停車 場通角／停車場通南2 角	1927.04.22	靴(革靴、ゴム長靴、オーバーシューズ、舶来防 水草靴、短靴、編上靴、学生靴、紳士靴)、運動靴(ス キー靴、スケート靴、テニス靴、乗馬靴、ハイキ ングシューズ、競技用、山岳用)、靴附属品 ☆大学指定店

店名	所在地	記事初出日	取扱い商品等
菊寿司	薄野松竹座前 ／松竹座横	1930.09.01	和食(江戸前寿司) ※立食
菊寿司支店	北11停車場際 ／北10西4	1932.06.07	和食(寿司、おでん)
菊地布団店	南5東4	1933.05.23	布団 ☆北大指定商店
菊地洋服店	北5西5電車通	1933.10.03	洋服
器具陳列所	南1西2	1930.10.20	ガスストーブ、ストーブ附属品、コークス
喜久屋	狸小路日活館前	1936.11.17	中古レコード(洋楽、邦楽)、蓄音器
喜久屋コーヒー店 ／喜久家コーヒー店	南1西4／南1西3	1934.03.20	コーヒー ※各国輸入焙煎精製、配達
菊屋食料品店	南1西4／南1西5	1932.06.21	食料品(コーヒー、紅茶、ココア)
喜撰堂菓子舗	北8西5大学通 ／大学南隣	1927.04.22	菓子(季節向生菓子、桜もち、鶯もち、草しんこ、田舎まんじゅう)
喜多一	北10西4菊寿司支店跡	1932.12.10	和食(おでん、鍋焼うどん、寿司)
北村洋服店／キタムラ洋服店	北8大学正門前	1927.03.18	紳士服(三つ揃い、背広、礼服、晴着、学生服、オーバー、マント、レインコート、ズボン) ☆北大各科制服注文所
紀文茶屋本店		1932.12.15	和食、中華料理 ※宴会可能
紀文茶屋レストラン部		1932.12.15	和食、中華料理 ※宴会可能
木本靴店	十字街	1927.12.05	靴(オーバーシューズ、革靴、ゴム靴)、運動靴(スキー靴、スケート靴)、カバン ☆スキー部山岳部御用
キュービー／Cupid	南2西5	1932.07.05	喫茶
金正堂昆時計店支店 ／昆時計店	北7西5大学通／大学通一貫堂眼鏡店隣	1932.01.18	時計(腕時計)
金文堂書店	大学正門前	1936.05.19	書籍
金門堂書店	大学通北7局隣 ／大学正門より半丁南 ／北8大学正門前	1927.11.07	新刊書籍(教科書、参考書、学術書、学術雑誌)、学用品(製図器、特製ノート、大学便箋・封筒、文房具) ☆大学各科教科書取扱い
金鈴食堂／金鈴	薄野	1936.10.20	喫茶、食堂(中華ランチ)
銀嶺荘	南1西5	1935.08.13	油絵具、写真(現像、焼付、複写、引伸)
熊公	南4西2／南4西3ヒラガ前	1937.09.14	和食(おでん、湯どうふ)
熊の子	薄野／[南5西4]	1930.06.16	喫茶(アイスクリーム、氷汁粉)
郡司精肉	北10西4	1929.11.04	家庭派出婦
郡司派出婦会 ／家庭派出婦会 (1931.01.12以降)			
郡司肉店／郡司牛肉店	大学前／予科前 (北9西4／北10西4)	1928.01.09	肉(ロース肉、山豚、札幌ハム、ソーセージ、ベーコン)、和食(肉鍋)、貸台鍋 ※会食・宴会可能
興文舎印刷所	[南8西8]	1938.04.19	印刷(活版、石版、オフセット)、和洋帳簿
康友館	北13西4北向	1937.04.06	下宿
交遊軒	南大通2	1929.06.17	撞球
国文堂商店	南2狸小路6	1938.05.24	書籍・雑誌(純文学、社会科学、文学)
コタニ運動具店 ／小谷運動具店	南1西5 南1西7 (1933.09.19以降)	1926.09.27	運動具(スキー、スケート、野球、庭球、ホッケー、蹴球、籠球、陸上競技、体操、海水浴、登山)、運動場設備(庭球コート) ☆北大山岳部デザインスキー・北大山岳部御用
小谷運動具店経営スキー制作部	南1西5	1929.12.09	スキー
小谷運動具店経営スキー制作部(革具部)	南1西5	1929.12.09	革製品(スキー靴、製靴、縮革)

店名	所在地	記事初出日	取扱い商品等
小谷運動具店経営スキー制作部(金工部)	白石町	1929.12.09	スキー
小谷運動具店経営スキー制作部(服装部)	南大通西7	1929.12.09	スキー服、登山服装、リュックサック
小谷運動具店経営スキー制作部(木工部)	南1西5／南大通西6	1929.12.09	スキー
コタニ運動具店工場	南1西9	1933.12.12	スキー ☆山岳部御用
後藤風雲堂札幌出張所	北11西4医学部正門前	1929.05.20	医療器械
コニシ喫茶店	大学前通	1927.11.07	喫茶(コーヒー、ケーキ、ミルク、パン)
小林パン店	北1西3	1937.10.26	パン
五番館	北4西3-1／停車場前／札幌駅前	1926.05.14	百貨店 ☆文武会園遊会御用
五番館写真部	[札幌駅前]	1938.05.10	カメラ
五番館食堂部	[札幌駅前]	1932.12.10	食堂
五番館食品売場／五番館食料品部	[札幌駅前]	1929.09.02	食料品(コーヒー、味噌、鮭寒塩引鰯)、食器、北海道名産、贈答用品
五番館文具部	[札幌駅前]	1927.11.21	学用品(文具)
コマツ靴店	十字街	1938.05.10	通学用靴
コマドリ	狸小路新川通／[南4西6]	1928.11.05	喫茶、洋食、洋酒
駒屋履物店	南5西4	1933.05.23	履物 ☆北大指定商店
小柳商会	南2西4	1927.04.22	自転車 ☆共済部指定
小柳自転車店(1938.06.28以降)			
小山歯科医院	北9西3	1927.11.07	歯科医院
小山ラジオ商会／小山商会	南1西6 南1西4(1933.05.23以降)	1928.04.16	ラジオ、電気器具、工事 ☆共済部指定商店
近藤商会	道庁北門前	1928.02.06	印刷(謄写版、附属品、消耗品) ☆帝国大学御用達
コンノズボン店	南2西3(電車通)／狸小路4角レンガ堂	1929.06.03	ズボン、白衣 洋服修繕改造(1933.11.07以降追加)
コンノズボン店修理製作工場	南5西11	1934.05.07	白衣、ズボン、修理製作
さ行			
斉藤薬局	南1西2	1927.04.22	医家処方剤、医療用酸素、薬品(血清、ワクチン、痘苗)、医療器械(体温計、吸入器)、諸般分析 ☆大学御用
佐伯ミルクホール	南6西4第二公設市場内	1927.05.18	喫茶(ミルク、コーヒー、アイスクリーム、清涼飲料、洋菓子、パン、氷類)、和食(鍋やきうどん)
佐伯ミルクホール(分店)	大通郵便局前	1927.05.18	喫茶(ミルク、コーヒー、アイスクリーム、清涼飲料、洋菓子、パン、氷類)、和食(鍋やきうどん)
坂口洋服店	大学通北7電停際／大学前通北8電停際	1930.10.06	洋服(学生服、三つ揃い、コート) ☆北大御用
坂野太泉堂	大通西4(停車場通)／停車場通第一銀行向	1929.05.20	万年筆 ☆各官庁学校御指定御用
桜井	北7西4	1930.05.24	土木 ☆文武会園遊会御用
桜井商会／桜井商店	北4西5	1927.03.18	ラジオ、電池
札幌運送社	北4西2	1935.06.18	引越し
札幌園芸農場	南9西7	1931.02.02	書籍『農芸水産百科典』
札幌温泉	[界川1]	1930.09.01	温泉、ピクニック

店名	所在地	記事初出日	取扱い商品等
札幌観江バス会社	[北7東1]	1938.06.14	観光(ハイキング、舟遊、釣魚)
札幌徽章商会／札幌メダル商会	南1西4-17 南3西3 (1943.10.12以降)	1934.04.24	徽章、賞牌、メダル、優勝カップ
札幌軌道会社	[北7東1]	1933.07.18	観光
札幌スキー	南大通西3	1931.12.07	スキー
札幌大正園	南7西6	1927.05.18	園芸、書籍
札幌拓殖農園	南5西14	1931.02.02	書籍『農芸水産百科典』
札幌堂書店 ／札幌堂書房	南大通西4(新川通角) ／南1停車場通 ／十字街(維新堂隣)	1926.09.27	新刊・古書籍(スキー山岳、医学、円本、園芸、音楽、紀要、芸術、工学、国漢、参考書、辞典、写真、小説、水産、随筆、全集、地歴、畜産、哲学、天文地学、土木、動植物、農学園芸畜産、美術、評論、文学、法帖、理学、林学) ☆北大各部参考書取扱い
札幌農園	[北4西7-1]	1927.05.18	農産種苗 ☆大学御用
札幌乗合自動車	北6西5南側	1930.11.17	乗合バス
サッポロベビーゴルフリンク	南1西3富貴堂裏通	1932.06.07	ゴルフリンク
札幌外四郡農会	石狩支庁内[北3西7]	1933.05.23	燃料(木炭、石炭) ☆北大指定商店
札幌北都ゴム工業所 ／北都ゴム工業所	[南5西5-22]	1928.11.05	ゴム靴
札幌麻雀倶楽部 ／札幌麻雀同好会	南3西6道庁南門通 ／狸小路6東向	1929.07.01	麻雀
札幌薬局	南2電車通	1927.11.21	処方調剤、薬品
札幌酪農組合ミルクプラント	北1西1	1934.01.09	牛乳
佐藤自転車店	大学正門前	1936.12.15	自転車、自転車部分品(タイヤチューブ)、冬・夏期預かり ☆北大本部御用
佐藤洗濯店	北1西2	1933.05.23	クリーニング(洋服) ☆北大指定商店
サロン・レントフ	南5西4美満寿館西筋向	1933.10.03	和食(肉鍋)
沢口商店	北10西2	1927.05.18	☆帝国大学御用
沢田商店	大学正門前	1926.06.17	文房具(ノート、和洋紙)、小間物、学用品
サンエスインキ	[南2西2-11]	1935.04.02	インキ ☆予科文房具売店・工学部売店取扱い
三か月	北8西1	1930.05.24	和食(寿司)、弁当 ※仕出し ☆文武会園遊会御用
三久洋服洋物店	南2西2十字街	1930.11.03	洋服、洋品雑貨
三勝	松竹座前(都々逸隣)	1928.11.05	和食(天ぷら、御飯、みそ椀、うどん、御新香)、酒
三昭堂楽器店	南7西3停車場通	1927.05.18	楽器
三八菓子舗 ／三八菓子店	南2西3 南4西3 (1933.05.23以降)	1930.06.16	生菓子、干菓子 ☆北大指定
三八菓子舗(分店)	南1西13	1930.06.16	生菓子、干菓子 ☆北大指定
三友館 日活館 (1938.10.25以降)	[南2西5-18]	1930.10.20	映画(洋画、邦画、大衆映画、文芸映画)
シーク調髪室	十字街	1935.12.17	理髪

店名	所在地	記事初出日	取扱い商品等
信伊奈支館	小樽市花園町東4	1927.03.18	写真
信伊奈写真館	南1西3-8	1926.05.14	写真(学生判)
塩入商店	北9大学前	1928.01.09	和洋家具 ☆大学御用達
四国屋	北5西16	1932.04.04	下宿
静岡屋食堂	駅直前角	1930.08.04	食堂
静岡屋旅館	駅直前角	1930.08.04	旅館
シマダ撞球場	南4西9	1932.10.18	撞球
清水理髪館	南4西7(市電西創成停留所前)	1934.02.20	理髪
下野写真館	南5、6仲通西5	1931.02.02	写真、撮影(夜間電気撮影、入学進級記念撮影、出張撮影)
十字堂書店	北7西5北大電車通	1934.04.24	古書籍 ☆北大各科参考書取扱い
十字堂文房具店	大学通北11電停前	1928.05.07	万年筆
[住宅]		1928.06.18	紳士向け住宅
尚古堂書店 ／尚古堂書肆	大通西4-6／拓銀前	1928.06.04	新刊・古書籍(和漢用書籍、學術書、官公本、郷土史、写本、新聞、稀本、考古学、国文、雑誌、辞典、紀要、音楽、短冊、動植物、美術、文学、報文、法帖、北海道関連の學術報文、参考書、歴史) ☆北大参考書取扱い
定山溪鉄道	豊平5-9	1931.01.12	観光(スキー、温泉)
定山溪ホテル	[定山溪温泉西4]	1929.01.02	ホテル
小蒸汽社	南9西7	1927.10.18	雑誌『小蒸汽』
松竹グリル	松竹座地下	1930.10.20	喫茶、和食(松茸料理)、酒
松竹座	[南4西3-1]	1930.10.20	映画館(オールトーキー、洋画、邦画)
松竹座	小樽	1941.06.10	映画館
松竹座	函館	1941.06.10	映画館
松竹座	旭川	1941.06.10	映画館
定鉄営業課	[豊平5-9]	1940.05.14	観光(ハイキング)
昭和電池商会	[南1西7]	1929.06.17	電池
書道研究鶯友支部	北4東1糧秣廠官舎	1931.07.06	書道
書房33年／三三年	南1西6道庁南門通	1933.09.19	古書籍 ☆大学予科参考書教科書取扱い
白玉バー	南3西3／南3西2	1930.05.24	洋食 ☆文武会園遊会御用
カフェー白玉 (1930.06.16以降)			カフェー(1930.06.16以降)
新川堂書店	南大通西5(新川通) ／狸小路5角	1926.09.27	新刊・古書籍(参考書、医学、工学、水産、動植物、地歴、畜産、農林、園芸、国漢、経済、小説、円本全集、文学書)、珍本絶版本(蝦夷関係書、江戸絵、法帖、文人書翰、色紙短冊類、農工医学書、英仏独露書、古写本、唐本、古切手、美術、山岳人類考古学) ☆北大各科参考書取扱い
新川堂古本預り部	南大通西5	1930.01.20	古書籍
新響社	南1西4中通南向 ／南1西4維新堂裏	1933.10.17	中古レコード
新興邦楽会	大学正門前並木写真館	1939.05.09	尺八 ※会員募集
信盛堂	南1西4仲通	1934.03.20	洋服(ネクタイ、ワイシャツ)
新明治洋服店	南1西7	1930.06.16	洋服
スーシー 四喜閣	大学正門前	1932.01.18	麻雀

店名	所在地	記事初出日	取扱い商品等
末広屋商店	南3停車場通	1930.09.01	婚礼用品、祝賀葬祭花環、徽章、祝儀進物、会場装飾材料(国旗、造花、花瓶)
末吉時計店	狸小路2	1929.07.01	万年筆、時計
ススキノ撞球場	南5西4	1932.10.18	撞球
スズラン会模型飛行機研究所	北5西11	1931.11.16	模型飛行機
スター	南3西3上野写真館隣	1928.01.09	喫茶(洋食)
スタジオイケダ	北8西4	1933.09.19	
シミ写真館	松竹座前北入左	1929.02.04	写真、撮影(学生記念写真、学生判)
住友炭砒札幌出張所	北1西3	1933.11.07	炭
住友炭砒販売所	北7西3	1933.11.07	炭
スマレ商会支店	北2西3(時計台通)	1931.10.05	スマレストーブ ☆購買部御用達
精巧社	南5西6	1928.10.15	印刷(雑誌、論文講義教材、報告書、葉書名刺)
精養軒	大通西5	1928.11.19	洋食、中華料理、和食、ホテル
千秋庵菓子舗	南3西3／停車場前	1927.11.21	和洋生菓子(カステラ、延寿松風)、宇治茶 ☆共済部指定商店
千秋庵喫茶室	停車場前／南3西3	1930.06.16	喫茶(アイスクリーム、みつ豆、アイス汁粉、宇治茶、生菓子)
千本寿し	キンシ南隣 ／南7西9-1034	1935.05.07	和食(江戸前寿司)
桑栄館	北4西11植物園裏	1929.10.07	下宿 ※浴場、ストーブあり
桑園書房	北5西11 ／北5西12電車通	1932.04.04	古書籍(山岳書蒐集)
測機舎北海道支店 ／測器舎北海道支店 た行	北10西2-2	1931.04.06	計算尺(土木、機械、電気)、製図用品(製図器、製図紙)、測量機械、電気機械、度量衡器、計量器
大学屋	狸小路西6	1930.12.01	大学いも
大観堂	狸小路西6国文堂隣	1932.10.18	額縁
大黒おでん	狸小路博品館隣 ／狸小路6	1931.11.02	和食(おでん、小鉢物、木乃芽でんがく)、酒
大黒屋	大通西3／南1西3	1930.09.01	菓子
大正軒撞球場	南4西2	1932.10.18	撞球
第二芳蘭	狸小路金市館内	1931.06.01	中華料理、洋酒 ※宴会可能
高木時計店 ／TAKAGITOKETEIN	停車場通拓銀前	1927.09.18	時計
高砂工業札幌出張所	南2西3	1930.10.20	乾電池
高田白衣店	大学正門前	1935.06.18	白衣、ズボン
高田綿行	北11東1石狩街道	1931.05.04	寝具(寝台、毛布、蒲団、丹前、夜具綿)
タカハシ靴店 ／高橋靴店	大学正門前	1927.03.18	靴、運動靴(スキー、スケート)、靴附属品 ☆北大指定
高橋写真館	南大通西4西向角 南1西8三吉神社隣 (1934.08.13以降)	1934.01.23	写真(現像、焼付)、撮影(各科アルバム) ☆共済部指定
武林写真館	北1西7東角	1926.05.14	写真、撮影(卒業記念アルバム、記念写真)
竹家	大学予科前／北9帝大 正門前／大学正門前	1927.05.18	中華料理、洋酒 ☆宴会・会食・送別会・歓迎会・クラス会用命
たこ福	南3西3	1930.05.24	和食(おでん、天ぷら) ☆文武会園遊会御用
多田塗料店	南1西6	1930.10.20	屋根セメント、ゴム靴塗料
タックル	南1西5	1933.11.07	洋酒
田中栄次郎	北9西4北大正門前	1927.05.18	製本 ☆大学御用製本所
タニウチ	南1西10電車通	1934.02.20	洋服

店名	所在地	記事初出し	取扱い商品等
タバタ洋服店 ／田端洋服店	南1西12電停前 ／南1西13	1928.10.15	紳士服、防虫剤、生地（ラシャ）
田端洋服店	南1西8電停前	1929.03.04	洋服
玉川衆楽園	[定山溪]	1931.07.06	観光（日帰り遊覧、温泉）、飲食（親子丼、ライスカレー、ビール、サイダー）
玉木塗料店	南1西5	1930.10.20	塗料
多満屋	十字街／南1西4	1936.04.28	喫茶、菓子 ☆共済部指定
玉屋眼鏡店	南1十字街	1926.06.17	眼鏡（スキー用、雪中登山用）
田村兄弟商会スキー部	南2東3	1930.10.20	スキー
田村商会	南7東本願寺前	1932.12.15	スキー
千種	南2西6南向	1932.10.04	中華料理、洋食 ☆宴会・クラス会用命
ちとせ	北6西5／大学通踏切際	1927.11.21	中華料理、和洋食 ☆文武会園遊会御用
中央倶楽部	[狸小路6] (博品館階上)	1932.10.18	麻雀
中央薬院	南1十字街角／南1西3	1930.09.01	薬品、衛生材料、中古写真機、写真材料、札幌市 電気局電車自動車回数券 ☆北大協済会指定
蝶屋洗染工場 ／CHOYA CLEANING ／蝶屋クリーニング	北1西2	1933.06.06	ドライクリーニング、洋服丸染、和洋服手入れ、 手織物漂白、洗張 ☆共済部指定商店
千代田商会	南10西11	1927.05.18	洋家具（洋服箆笥、寝台、書棚、卓子、椅子）
月見ずし	停車場通拓銀前	1929.06.03	和食（寿司） ☆文武会園遊会御用
帝国製麻札幌支店	[北7東1]	1927.05.18	亜麻製品
鉄北双雀倶楽部 ／双雀倶楽部	大学予科前	1931.04.20	麻雀
桃園	南3西5	1933.10.03	中国銘酒（虎骨木瓜）
堂腰喫茶部	大通西4角	1932.05.02	喫茶（コーヒー、洋生菓子）
堂腰食料品店	大通西4停車場通	1927.06.13	食料品（洋酒、洋生菓子、北海名産品、石狩新巻 さけ、ケーキ）、喫茶（コーヒー、紅茶）
東島洋服店 ／トウジマ洋服店	狸小路5／三友館前	1927.04.22	洋服（学生服）
常磐撞球場	大学前	1932.10.18	撞球
都々逸	南5松竹座前	1928.09.17	おでん
富栴洋装店 ／Schneider Tomimasu	南5西6（電車通）	1927.09.18	洋服（制服、小児服、婦人服、礼服）
鳥照 な行	南4西2	1933.02.01	焼鳥
ナイト商会	大学正門前（北8）	1932.12.10	時計、眼鏡、蓄音機、カメラ、写真材料、写真（現 像、焼付）
ナイト時計店	大学正門前	1933.10.17	時計、蓄音機、眼鏡、写真機、写真材料 ☆北大厚生部御指定
ナイト眼鏡部	大学正門前	1934.01.23	眼鏡、写真（現像、焼付、引伸）
大向井洋服店 ／ナカウロコ	南2西5新川通	1928.11.05	洋服
長沢嘉四郎商店	北9西3-4	1927.09.18	理化学器械薬品 ☆大学御用達
中島ベビゴルフリンク	中島電車停留所際	1932.06.21	ゴルフリンク ※夜間開場
中寿司	札幌	1941.05.13	和食（寿司）
中野修繕工場	南2西2	1933.05.23	時計・製図器修繕 ☆北大指定商店
中野商店スキー部	札幌	1928.01.09	スキー

店名	所在地	記事初出日	取扱い商品等
中野四郎商店 ／中野商店	南1西2角	1926.05.14	時計、貴金属、測量、製図機械、事務用品、スキー、 製図用紙、文房具、計算尺、定規 ☆北大各部御用
中野四郎商店 ／中野売店	工学部内売店	1927.03.18	製図器械、製図用紙、文房具、計算尺、定規 ☆工学部御用
中村商店	停車場通物産館前	1929.07.01	鞆、行李
中村屋	大学病院通用門前	1937.10.12	籠詰、新鮮果実 ※御見舞、御みやげ用
中屋菓子店 ／中屋菓子舗	大学正門前	1927.03.18	季節生菓子(桜もち、草もち、柏もち) ☆級会用命
なぎさ	[北7]	1939.06.16	喫茶(コーヒー)、音楽
ナトリヤ洋服店	狸小路3東向	1930.10.06	洋服(背広服、三つ揃い、ズボン)
ナナ／Nana	停車場通五番館前	1932.04.04	喫茶(洋酒)
難波文具店	駅通(三越前)	1933.02.01	文具、白樺細工、土産
南陽堂書店	北7西5大学正門通 ／北8西5大学通	1930.08.04	古書籍(和洋書、教科書、参考書、農学、工学、医学、 理学、水産、法律、辞典、漢書、古写本、随筆、文学 書、小説、雑誌、絵本) ☆北大関係書取扱い 製本部増設(1938.06.14以降) ☆元北大図書館勤務岡田友太郎氏責任引受
南陽堂狸小路出張所	狸小路西7	1938.06.14	書籍、製本 ☆元北大図書館勤務岡田友太郎氏責任引受
錦ホテル	定山溪	1930.09.15	ホテル、温泉
西の宮	南4西4新川通角	1929.01.02	レストラン
西村洋菓子店 ／Nishimura Sweet Shop ／SWEETSHOP NISHIMURA	札幌駅前(札幌ビル)	1932.06.07	洋生菓子、喫茶(ケーキ、チョコレート、コーヒー、 ミルク)
西村洋菓子店	十字街売店、富貴堂西 隣	1939.10.10	洋菓子、喫茶(コーヒー、ミルク、チョコレート)
西村洋菓子店	小樽花園町	1939.10.10	洋菓子
日華	南5西4	1932.12.15	中華料理 ☆宴会・クラス会用命
日新	南4西9東向	1935.04.02	撞球
日本生命札幌支店	南3西3-10	1930.10.20	生命保険
日本タイプライター 札幌出張所	南5西3	1928.06.04	邦文タイプライター、印書
日本麻雀連盟札幌支 部	札幌	1932.10.18	麻雀
日本盛	元都々逸跡	1933.11.07	和食(おでん)、洋食(フライ)、酒
人形や	土木専門部前	1930.10.06	喫茶
人形や喫茶部	大学病院前	1930.05.19	喫茶
ヌブリ	南3西5	1932.06.21	喫茶
ネヴォ喫茶店	北2西3	1931.05.04	喫茶(コーヒー、ハムライス) ※レコード演奏 あり
ネヴォ喫茶店(支店)	小樽妙見河畔	1931.12.07	喫茶、レコード
ネヴォ・レコードマー ケット	北2西3ネヴォ喫茶店 内	1936.05.05	中古レコード
野沢菓子舗	大学病院前	1927.05.18	菓子
野沢菓子舗(支店)	南1西5電車通	1927.05.18	菓子
野沢商会	北12西4	1927.05.18	理化学器械 ☆大学御用
野沢北盛軒	大学病院前	1927.05.18	理髪
野田製作所	狸小路西8	1937.01.12	絵画、額縁
能登屋	大学病院前	1928.10.15	撞球、下宿
ノトヤ靴店	北4西12	1936.11.17	運動靴(スキー、登山) ☆山岳部スキー部指定

店名	所在地	記事初出日	取扱い商品等
のとや旅館	[北13西4-10]	1932.10.18	旅館
のとや旅館撞球麻雀倶楽部	[北13西4-10]	1932.10.18	撞球、麻雀
登別温泉第一瀧本館	[幌別村]	1930.08.04	温泉 ※避暑、療養
登別温泉第二瀧本館	[幌別村]	1929.01.02	温泉
は行			
ハウスクローバー	北16西5	1928.05.07	下宿
芳賀スキー店	円山5電車通 ／外円山5	1930.11.03	スキー、スキー附属品
白十字堂／北の白十字 コーヒ店	北4西3停車場通 ／北3停車場通	1927.02.18	喫茶(コーヒー、アイスクリーム、洋菓子)
白樺／白樺茶寮 (1927.11.21以降)			
白十字	大学前	1932.09.20	喫茶(純洋生菓子)
白十字堂	南3西4／南4西4	1927.05.18	喫茶(洋生菓子、クリームサンデー、シャーベ ット、ケーキ、パン)、パンチ
博品館撞球場	博品館階上狸小路西6	1932.10.18	撞球
ハジメ	北5西11元桑園軒跡	1929.02.04	撞球
長谷川商店スキー部	南1西1	1933.11.28	スキー
八の字／八乃じ	薄野交差点	1929.06.03	喫茶(氷汁粉、アイスクリーム)
八巻	宝瑩座裏	1936.10.20	和食(天ぷら)
花井商店	南1西8	1930.10.20	ストーブ、鍋
花すし	北7西1	1929.06.03	和食(寿司)、弁当 ※仕出し ☆文武会園遊会御用
花つづら	十字街	1934.10.01	喫茶(コーヒー)
花本	南5西3	1928.11.05	和食(天ぷら) ※宴会可能
羽田調帯北海道出張 所	北1西3	1927.05.18	調帯
早来スズラン屋	大学正門前	1933.06.06	スズラン ※発送
林クリーニング商会	南3西3 北3西3 (1932.06.21以降)	1931.10.05	ドライクリーニング
林屋茶店 ／林屋製茶札幌支店	南1西3	1930.09.15	宇治茶
原田食料品店	狸小路7	1934.02.20	洋酒(ウイスキー)
パレス撞球場	大学前	1932.10.18	撞球
半田精巧堂	南2西3-18	1930.11.03	印鑑
ビックリ	[狸小路6](博品館東)	1937.10.12	和食(ぜんざい、玉子入り鍋やき)
ひとみ	大学予科事務所前	1927.07.09	喫茶(アイスクリーム)
日之出屋商店	停車場通拓銀前	1930.06.16	菓子(和洋生菓子、干菓子、豆菓子、パン、袋入菓 子) ※問屋、茶話会・会合用命
百留屋／百留屋食堂	狸小路2	1929.06.03	フルーツパーラー・喫茶(フルーツポンチ、フ ルーツコンポート、フルーツゼリー、フル ーツサラダ、ミルクイチゴ、フルーツクリーム、 アイスクリーム、ミルクポンチ、クリームポ ンチ、クリームコンポート、フルーツレモ ネード、アップル料理、水蜜桃料理、スイカ料 理、メロン料理、トマト料理、汁粉、蜜豆)、洋食 (チキンライス、ハヤシライス、ライスカレー)、 和食(鍋やき、ぞうに、寿司、丼)、中華料理(中 華そば、ラーメン、チャーシューメン)、果物 (リンゴ) ※果物販売・送荷
ビリヤード・シロバラ	南2西4	1932.10.18	ビリヤード
ピンフ 平和麻雀倶楽部	南1西6仲通	1930.10.06	麻雀

店名	所在地	記事初出日	取扱い商品等
富貴堂書房	南1西3／南1十字街	1926.05.14	書籍、文房具、楽器、運動具 ☆北大指定商店
富貴堂運動具部	南1西4／南2西4 ／十字街	1927.04.22	運動具・運動服(野球、庭球、水泳、冬山用品、スケート、柔剣道、蹴球、ホッケー、スキー、陸上競技)、 ☆北大各競技部御用
福でん	南4西3	1935.10.15	和食(おでん、天ぷら)
藤井運動具店	南1西4	1936.04.07	運動用具(登山用具、武術道具、体育器具)
藤井果実店／フジイ	北1西3	1933.05.23	果実 ☆北大指定商店
藤井商店／大丸藤井商店／ダイマル文具店／藤井文房具店	南1西3／南1西4	1926.05.14	文房具(和洋紙、フールス紙、ノート、石鹸、万年筆、インク、製図用品、アルバム、帳簿)、写真、宝石、石膏細工、木彫り品 ☆校外指定商、BB ノート北大マーク入り取扱い
藤井文房具店／藤井商店工学部内売店／㊦藤井商店／ダイマル藤井商店	工学部売店	1932.07.05	文房具(和洋紙、フールス紙、ノート、万年筆、インク、製図用品、石膏、アルバム、帳簿)、石鹸、宝石 ☆共済部指定店、BB ノート北大マーク入り取扱い
藤井文房具店／藤井商店予科内売店／大丸藤井商店予科文房具売店／㊦藤井商店／ダイマル藤井商店	予科北消会 ／予科文房具売店	1932.07.05	文房具(和洋紙、フールス紙、ノート、石鹸、万年筆、インク、製図用品、アルバム、帳簿)、写真、宝石、石膏細工 ☆校外指定商、BB ノート北大マーク入り取扱い
藤枝商会	南大通西7	1931.09.07	書籍『農芸水産百科典』
フジガ商店	北3西3大同ビル3階 南1十字街 (1937.04.06以降)	1936.11.17	山岳用品(アイゼン、ピッケル、天幕)、スポーツ用品(ゴルフ、スキー、釣) ☆北大山岳部スキー部御用
藤ノ沢スキー場	札幌	1940.01.16	スキー場、山小屋
富士本	南大通(仲通)西5	1931.11.16	和食(肉鍋) ※宴会可能
藤本商会	南1西5-7／南1西7	1928.06.04	電気器械・器具材料、電池、写真材料
フジヤ商会	北12西3 北10西4 (1931.09.21以降)	1927.05.18	理化学・医療用品、薬局、薬品 ☆大学御用
富士屋制帽店	東京市本郷区森川町 (一高寄)	1935.08.13	帽子(学生帽、パナマ、ストローハット) ☆北海道帝大御用
藤屋洋服店	南3西4	1930.11.17	洋服 ☆大学指定
藤屋綿引商店	薄野十字街	1928.11.19	食料品(青果、乾物、漬物)
藤屋綿引商店	恵迪寮購買室	1928.11.19	食料品(青果、乾物、漬物)
フタバ楽器店	南1西4十字街	1935.06.18	楽器(ピアノ、オルガン、ギター、ウクレレ、ハーモニカ)、楽譜
双葉屋洋服店	大学通大学前	1928.04.16	洋服
船山帽子店	南1西4	1927.03.18	帽子
ブラジレイロ	薄野／[南3西3]	1934.10.01	喫茶(コーヒー)
プリンス洋服店	薄野交差点前 ／薄野電停前	1929.05.06	洋服(コート、学生服、ズボン、トンビ、社交服、背広服、ゴルフ服) ※無料直し
古屋医院	[南7西1-1 札幌市立 高等女学校附近]	1927.04.22	医院
プレイガイド	南3西3	1942.02.17	玩具(ゲーム、パズル)
文栄堂印刷所	北1西3-2／北2西3	1926.06.17	印刷(活版、石版、欧文、コロタイプ、帳簿、絵葉書、写真銅板、名刺)、製本
文化アパートメント 札幌支部	北12西3角	1932.06.07	洋室アパート
文喜堂印刷所	南2西10電鉄向	1927.08.18	印刷 ☆大学新聞部御用

店名	所在地	記事初出日	取扱い商品等
文喜堂印刷所	学生集会所二階新聞部 ☆新聞部へ出張	1927.11.07	印刷(名刺、葉書) ☆大学新聞部御用
米風亭	南1西3	1929.11.18	洋食、中華料理 ※宴会、晩餐会可能
紅雀倶楽部	南2西6	1931.05.18	麻雀
べにほくろ ／ベニホクロ ／BENIHOKURO	南3西5東向	1932.10.04	喫茶
ベラミー理容室	薄野	1932.07.05	理髪店
ベルス喫茶部／ベルス 喫茶店	大学正門前	1928.11.05	喫茶(洋菓子、ケーキ、アイスクリーム) ☆文武会園遊会御用
ベルス洋菓子売店	北1電停前	1933.02.01	洋生菓子、パン
宝瑩座 ----- 東宝映画劇場 (1937.12.14以降)	[南5西2]	1936.02.04	映画(トーキー、洋画、邦画)
豊平館 ／札幌豊平館	北1西1	1927.04.22	洋食 ☆歓迎会、懇親会、級会、県人会
豊平館 ／豊平館出張所	学生集会所食堂 ／学生ホール内	1926.05.14	洋食(一円定食、カレーライス、ハヤシライス、 チキンライス、ハムライス、コーヒー、紅茶、牛 乳、パン、洋生菓子、ポークカツレツ、リボンシ トロン、ハッシュド・ライス) ☆歓迎会、懇親会、級会、県人会
豊平館出張所	北大医学部内 ／医学部学友会館	1927.04.22	洋食
芳蘭 ----- 狸小路6 (1930.08.04以降)	南4西4 狸小路6 (1930.08.04以降)	1927.05.18	中華料理 ☆クラス会・県人会・宴会
芳蘭	旭川	1933.10.17	中華料理
朗	南3西5	1932.06.21	喫茶
北消会理髪部 ※上原理髪店出張	校内中央講堂裏	1930.10.06	理髪
北辰堂薬局	大学正門南隣 ／北8西5	1927.09.18	処方調剤、薬品、体温計、写真材料、化粧品、衛生 材料 ☆大学指定職員学生特約販売所
北星堂	狸小路4	1938.11.22	古書籍
北都園	大通西4(拓銀前)	1927.06.13	タバコ、化粧品
北門銀行	[大通西4-1]	1936.04.07	金融
北海写真工芸社 ／写真工芸社	南1西19 ／円山北仲通1	1930.10.06	印刷、写真現像、研究用標本撮影
北海水力電気札幌営 業部	[大通東1-2]	1928.02.20	電気
北海石版活版所	北2西3停車場通角	1927.05.18	印刷(石版、活版、オフセット、凸版、ポイント、 コロタイプ、写真版、原色版、欧文)
北海タイムス社	大通西2	1930.05.05	新聞『北海タイムス』、書籍『農芸水産百科典』
北海タイムス社活動 写真撮影部	[大通西2]	1927.05.18	映画製作
北海中央農園	豊平3-9	1931.02.02	書籍『農芸水産百科典』
北海道映画芸術協会	南2西10	1930.01.20	雑誌『シネマ』
北海道瓦斯	[北4東5-373]	1933.11.07	ガスストーブ、コークス
北海道協立自動車学 校	中の島	1932.07.05	自動車運転夏季講習会
北海道新聞社	[南6西8]	1944.04.18	北海道新聞
北海道売炭所札幌出 張所	北6西4-2	1933.11.28	炭(石炭、練炭、骸炭)
北海標本社	北7西5大学通	1938.05.10	昆虫植物採集用具、硝子製器具、博物学標本 模型、化学実験用玻璃器
北海標本社剥製部	北7西4	1937.10.26	鳥動物剥製、実験材料、毛皮加工

店名	所在地	記事初出日	取扱い商品等
ポブラ	三友館前／鈴蘭街	1927.09.18	喫茶(ドーナツ)
ボラリス	狸小路6道庁南門通	1933.09.19	喫茶、食事
堀内商会活動写真部 ／堀内商店	南4西3角	1927.04.22	活動写真・写真(写真機、写真用品、写真技術、映画製作、撮影機、映写機、光学機械、卒業記念写真帳)、映画貸付 ☆北大スキー部用命
幌都写真館	南7停車場通	1931.10.05	出張撮影(スポーツ、会合)
本多商店札幌支店	北2西4-1 ／北2停車場通	1927.05.18	鉱山用安全灯、機械工具・器具、卓上印刷機
ホンマ靴店／本間製靴 営業所札幌支店	北1停車場通拓銀隣 ／停車場通拓銀前	1930.11.17	靴(オーバーシューズ、革靴、スキースケート靴、防寒毛足袋、学生上靴、学生用ゴム長、学生革靴)
ま行			
麻雀荘朱雀	南2西5新川通東向	1932.10.18	麻雀
真駒内スキー場	札幌	1940.01.16	スキー、山小屋
マスタガ商会	南2西4(停車場通)	1928.05.21	ラジオ、無線電話受信機
マスマ	南2西3	1935.06.04	レコード、蓄音器
松島屋	北5西12	1930.07.07	菓子(串だんご) ☆工学部園遊会で好評
松島屋喫茶店	桑園13電停 ／競馬場通電停際	1930.05.19	喫茶(コーヒー、アイスクリーム、清涼飲料)、洋食(小牛料理)、中華料理(シューマイ)
松実洋服店 ／マツミ洋服店	北3西3停車場通	1927.03.18	洋服(制服、レインコート)
松本剛太郎	南2西2	1927.11.07	内科医院
まつや	北7西4	1931.05.23	菓子(苺もち)
松屋洋服店	北9西4大学予科事務 所前	1926.06.17	洋服(燕尾服、コート、背広、大学制服、霜降小倉制服)、生地(大柄、大格子、ブリュール、ビスケット、グレー、織模様、縞、ジャカード、応用の変柄) ☆大学御用
マドカ／MADCA	鈴蘭街6	1933.02.01	喫茶
丸井運送社 ／丸札幌運送店	札幌駅前(北4西2)	1935.06.18	荷物運搬、市内引越荷物 ☆共済部指定店
まる一塩谷	北2東7	1930.02.03	和食(肉鍋) ☆クラス会用命、文武会御用
㊦写真部㊦2階写真室	狸小路6京博品館 二階	1931.10.05	写真
㊦百貨店／㊦博品館	狸小路6	1931.09.21	百貨店
○ずし	北2東7	1929.06.03	和食(寿司) ☆文武会園遊会御用
丸善札幌出張所 ／丸善書店 ／丸善札幌支店	北8西4大学正門前 北1停車場通(徴兵ビル内) (1934.04.03以降) 北3西3停車場通大同 生命館 ／停車場通大同ビル内 (1935.11.19以降)	1926.05.14	和洋書籍、文房具(大学ノート、万年筆、鉛筆、カーボンペーパー、レターファイル)、学用品(製図器、計算尺)、事務用品(タイプライター、計算機、自動番号器、ドキュメントケース)、洋服・帽子(麦わら帽、本パナマ、レインコート、ウェザーオールコート)、雑貨(毛メリヤス、手提鞆、純毛毛布)、化粧品 ☆各科教科書・参考書取扱い
丸富鞆店	南2西4	1938.06.28	鞆、袋物 ☆共済部指定
マルミヤ	薄野十字街	1932.06.21	男帽子
丸見[屋]	北8西2	1930.05.24	料理 ☆文武会園遊会御用
まるや	狸小路4南向	1941.11.11	万年筆、製図器
㊦第二支店	大通南3	1930.06.16	和食(きそば、ひやそば)

店名	所在地	記事初出日	取扱い商品等
万年堂／札幌万年堂	南4西3	1927.04.22	万年筆 ☆クラーク万年筆取扱い
ミウラ洋服店	北10西4(土専前)	1941.01.17	紳士服 ☆文武会共済部指定
ミカミ	南1西9南向	1932.06.07	洋食、中華料理 ☆宴会・クラス会用命
三河屋酒場	狸小路4／鈴蘭街西4	1929.07.01	和食(肉鍋)、酒(日本酒、洋酒、電気ブランデー) ※純酒場、洋式酒場 ☆クラス会用命
三河屋酒場精肉部	狸小路	1929.10.07	和食(鍋料理) ☆クラス会用命
三国屋クリーニング	北9西4	1934.05.21	クリーニング
三島家	南5西6	1930.09.01	和食(肉鍋、すき焼)、精肉 ☆級会・県人会用命
水野眼鏡商会 ／水野眼鏡店 ／MIZUNO GANKYOTEN	南2西4角	1926.06.17	眼鏡、貴金属、カメラ、写真材料、マイクロス コープ
三越	十字街／[南1西3-8]	1932.05.02	百貨店
ミツホ	北4西11電停前 ／北4西13電停	1930.05.19	撞球
三ツ星商会	北7西5角 北11西4 (1927.11.07以降)	1927.04.22	家具
三星時計店 ／MITSUBOSHI-TOKEITEN	大学通北7西5 ／北7大学通	1929.06.03	時計 ☆文武会御用
緑館	北7西1	1928.11.19	下宿
港寿司	南4西2辰巳前	1941.04.08	和食(江戸前寿司)
湊屋	狸小路3	1930.08.04	喫茶、パン
ミハト	狸小路6	1932.06.07	喫茶 ☆宴会・クラス会用命 洋食、中華料理(1932.09.20以降) ☆宴会・クラス会用命
三春フォトスタジオ ／三春写真館 ／三春久平	南2西3	1927.12.05	写真(現像、焼付、モダンレターチ、原版保 存)、活動写真、撮影(大学各科記念アルバム、 半身ポートレート)、レンズ、時計 ☆大学指定 写真(手札形) ※写場新築落成、撮影装置完 備、昼夜撮影 ☆大学指定 (1936.09.22以降)
美満寿館	[南5西3]	1927.11.07	映画(洋画、邦画)
都おでん	南2西4南向	1933.04.04	和食(おでん)、上かん
宮沢金物店	北7西4大学通	1930.10.20	ストーブ(カマダストーブ、アタリヤストーブ)
宮本商店	南3西2角／南3四ツ角	1927.09.18	洋服(背広、三つ揃い、コート、ズボン、セーラー パンツ、中学制服、学生服、霜降小倉服、黒セル 服、平ズボン、労働服、作業服)、靴(学生靴、ゴム 長靴)、運動服(スキー服、登山服、登山帽、乗馬用 ズボン)
宮本製靴部	[南3西2]	1927.09.18	靴(学生靴、編上靴、短靴)
美よし野	狸小路2	1929.07.01	喫茶(あずきアイス)
睦館	大通東1	1929.11.04	旅館、下宿
武藤機械店	北3西6	1931.09.21	機械
武藤器械店札幌支店	北5西5-2	1927.09.18	理化学器械、解剖器械、医療器械、度量衡計量器、 レントゲン装置、オリオンカーボン太陽光線浴 室、家庭用太陽灯、イオニザトル ☆大学御用

店名	所在地	記事初出日	取扱い商品等
武藤器械店支店	函館市蓬萊町153	1931.10.05	オリオン人工太陽灯、顕微鏡・附属品、標本箱、硝子器具、解剖器械
村上花園	北3西10／北6西10 ／北6西11魔の踏切付 近／北6西11中通／北 5西10庁立高女通	1928.05.21	スズラン、アツモリ草、ダリア球根、黒百合球根 ※根付き、発送
鳴臯堂	北6西6-2	1927.09.18	製本 ☆御用製本所
明治製菓撞球場	[南3西3]	1932.10.18	撞球
明治製菓出張売店	円山記念シャンツェ	1931.01.12	飲料、軽食(うどん、そば、ホットドッグ、サツマ汁)
明治製菓出張売店	中島スケートリンク内	1931.01.12	飲料、軽食(うどん、そば、ホットドッグ、サツマ汁)
明治製菓売店 ／明治製菓札幌売店	狸小路3	1930.06.16	喫茶(菓子、ソーダ水、コーヒー、明治アイスクリーム、フルーツボンチ)、撞球 ※ティーパーティー、喫茶出張サービス可能 ☆クラス会
明治屋札幌出張所 ／MEIDI_YA	南3西2-17 ／南3西2西向	1932.05.17	食料品(月桂冠瓶詰、洋酒、キリンビール、ワイン、スピリッツ、キャンディ、砂糖、味噌、醤油、パン)、雑貨(洋食器、陶磁器、硝子器、化粧品、香水、石鹼、北海道名産おみやげ)
明治洋服店	北2西3	1930.06.16	洋服
本両関	オリンピック隣南3西4 ／南3西4いく代前	1937.10.26	和食(おでん、茶めし、みそわん)、酒
桃太楼	南3西3	1927.07.09	料理 ☆級会県人会用命
モリ写真館	大学正門前東向	1930.10.20	写真(焼付現像、急速製作)、撮影(出張撮影、アルバム調製、夜間撮影)
森田スタジオ ／森田清次郎 ／森田写真館	南6西4	1930.07.07	写真(現像、焼付)、撮影(学生用6枚続高級写真、卒業各科アルバム) ☆北大指定写真館
森永製品北海販売	北2東3	1927.06.13	菓子(ミルクキャラメル、チョコレート)
森永ミルクホール		1928.06.04	ミルク
問題の店		1931.01.12	生菓子
や行			
ヤサカ眼鏡店 ／ヤサカ商店 ／ヤサカ中原商店	医科大学前 ／北12西4／北11西4	1929.06.03	眼鏡、時計、洋品 ☆北大指定商店
ヤサカ眼鏡店附設修繕部	医科大学前	1929.06.03	時計
ヤスノ茶房／YASUNO	南3西6三友館西向 ／狸小路5／鈴蘭街5 ／鈴蘭街西6	1927.10.18	喫茶(アイスクリーム、ホットケーキ、スイートポテト、フルーツ、蜜豆) 麻雀(1932.05.17以降追加)
ヤスノ麻雀荘	狸小路6	1932.10.18	麻雀
八千代食堂	大学通医科門前	1928.09.17	洋食、喫茶
やっこ	南4西3	1929.05.20	飲食
やっこ(支店)	美満寿館裏	1929.05.20	飲食
柳もち	北6西5	1930.05.24	問屋 ☆文武会園遊会御用
矢原電機商会	南3西4	1928.05.21	ラジオ受信機
山形屋食料品店 ／山形屋商店	北2西3／停車場通	1927.04.22	食料品(和洋酒、加茂鶴二リットル瓶、醤油新ソース、石狩新巻鮭、缶詰)、雑貨(硬質陶器、食器、特製記念鉄瓶、北海道土産・名産品、御大典記念販売品)
山川理髪店	北1停車場通 南10西13／南12西13 (1932.12.15以降)	1932.08.02	理髪

店名	所在地	記事初出日	取扱い商品等
山口薬局写真部	南4西4薄野十字街角	1935.11.05	写真(現像、焼付、引伸)
山田靴店	北7西4大学通	1927.11.21	靴
山田靴店	小樽市中央通	1934.04.24	靴
ヤマト	北1停車場通	1932.07.05	喫茶
ヤマト種苗農具会社	南1西13	1931.02.02	書籍『農芸水産百科典』
山と雪の会	北2西13	1930.12.01	雑誌『山と雪』、書籍『スキージャンピング』
やまに金生／金生	南5西4	1928.05.07	和食(肉鍋)、洋食 ☆級会・県人会・同窓会用命
山鼻倶楽部	南14西6行啓通電車停留所より東三十間	1931.12.07	麻雀
山藤印刷	南2西6	1926.06.17	印刷
山本ドライクリーニング工場	南2東3	1935.02.19	ドライクリーニング
山本眼鏡店	南4西4(薄野電停前)	1928.10.15	眼鏡、スキー眼鏡 ☆大学指定
湯上蓄音器	グランドホテル前(白洋舎跡)	1937.10.26	蓄音器
湯浅蓄電池製造札幌営業所	南1西7-13	1928.11.05	蓄電池、乾電池、機械器具、充電器
ユーゴー亭	徴兵ビル内	1929.06.03	洋食(サンドウィッチ) ☆文武会園遊会御用
ユーセンドー／有泉堂眼鏡商会／有泉堂眼鏡店	十字街三越前／南1西5／南1西4	1933.04.04	眼鏡、双眼鏡、顕微鏡 ☆校外指定商 眼鏡 ※眼鏡専門(1933.05.23以降)
弓削商店	南大通西3	1930.10.20	フクロクストーブ
ヨーラク玉場	北5西13西南角	1927.11.21	撞球
吉川ウエル堂	狸小路金市館	1935.10.15	万年筆
吉田ダリア園	北4西11	1930.05.05	ダリア ※輸入、栽培
吉田敏治	北8西5-1(北大共済部裏通)	1937.05.11	写真(現像、焼付、引伸)、出張撮影
ヨット	東京庵隣	1929.05.20	喫茶
米久肉店	南6西4／薄野	1928.10.15	和食(肉鍋)、洋食(ハム料理、コールドビーフ、アイスクリーム) ☆級会・県人会用命
米久商会札幌支店	南5西3	1928.11.19	モートル、電熱器、配電盤
米長肉店	大学正門前	1928.11.19	和食(肉鍋) ※集会用命
ら行			
ライオン徽章商会札幌支店	南1西5-7	1932.07.05	徽章、賞牌、メダル、記念品、優勝カップ
来々軒	狸小路3	1928.11.05	喫茶(甘栗)
ラジオカルク温泉	定山溪	1932.12.15	温泉、下宿 ※スキー客三食付 ☆級会用命
ラジオ電気商会北海道支店	北8西4(大学正門前)	1927.07.09	ラジオ、修理、無線電話機械、受信機
立身館	山鼻線公園通停留所より南へ半町右／南12西7南向	1927.09.18	下宿
両関	南2西2	1938.10.25	和食(おでん) ※会食、宴会可能
リラ	狸小路4(元お嬢さん跡地)	1932.06.21	
ルージュスタンド	南3西4(西向)	1936.12.15	
ルビー	十字街	1927.05.18	喫茶(洋菓子)
※ユーゴー亭直営			
ロータス		1928.06.18	喫茶(果物)、洋酒
六味もち	北3西4停車場通	1930.10.06	もち
碌々商店札幌支店	停車場前／北4西4-1	1927.05.18	石油発動機

店名	所在地	記事初出日	取扱い商品等
ロンドン写真館	狸小路6	1935.06.18	写真、乾板印画 ☆北大関係大歓迎
わ行			
若松商事	北2西3停車場通 ／北2西3-1	1927.04.22	洋服(子供服、作業服、大学制服、入学・卒業晴着)、 靴(ゴム靴)、文化織敷物、毛布、毛織物、綿布、フ クロクストープ、ストープシート ☆大学御用
脇野商店	豊平駅前	1927.11.07	食料品(瓶詰、ウスターシャーソース、缶詰)
渡辺	北7西8(大学リング園 裏)／水産実験所前	1930.05.05	個人下宿
渡辺薬局	大学通北11電停前	1928.09.17	処方調剤、薬品、内外高級化粧品、タバコ、郵便 切手
数字・アルファベット			
500 lan	南1西6	1932.06.07	喫茶
DIE FORM	薄野	1933.08.15	喫茶
HUTTE／HÜTTE	南4停車場通	1932.05.17	喫茶
KOJIMA COFFE STORE	南1西6	1932.10.04	喫茶(ティー、ココア、コーヒー)
PHOTO CAMERA HOUSE	停車場通北1	1927.04.22	映写機(パテベビーフィルム)、写真(現像、焼付)、 写真機、写真材料
TROIKA	南大通西5	1932.09.20	喫茶

[注]

- (1) 漢字の旧字・異体字を、基本的に常用の新字に改めた。
- (2) 変体仮名を、すべて常用の仮名に改めた。
- (3) 歴史的仮名づかいを、現代仮名づかいに改めた。
- (4) 推定、補語は [] 表記とした。
- (5) 不明な項目は空欄とした。
- (6) 補足事項がある場合は、各項目の末尾に※を置いたうえで内容を記した。
- (7) 時期によって著しい変更がある場合は、各項目内を改行し、変更が発生した年月日と共に記した。
- (8) 「店名」に表記ゆれがある場合は、／で句切り、日本語表記のものを優先して先頭に記した。
- (9) 「店名」を見出し語とし、五十音順で配列した。
- (10) 「所在地」の表記は、内容に影響のない範囲で簡略化した。
- (11) 「所在地」に表記ゆれがある場合は、／で句切って記した。
- (12) 「取扱い商品等」は、原資料の記述の概略を記した。
- (13) 「取扱い商品等」に北海道帝国大学に関連する事物がある場合は末尾を改行し、行頭に☆を置いたうえで内容を記した。

2. 解 説

中村 美樹子

I. 商店一覧の作成にあたって

本一覧は、『北海道帝国大学新聞』¹⁾（以下、「北大新聞」と略す）掲載広告の、戦前の商店を紹介するものである。対象期間は、創刊号（1926年5月14日）から第300号（1944年4月18日）とした²⁾。

本一覧では、北海道帝国大学（以下、「北大」と略す）の学生が、消費者として直接商品を購入する、またはサービスを受けた北海道内所在の商店を取り上げた。ただし、東京都内所在の商店であるが、広告中に「北大御用」という記載を含む「富士屋制帽店」は一覧に載せた。また、所在地が北海道内であっても、「サッポロビール」（大日本麦酒札幌支店）、「肝精」（福生堂）、「クローバー印バター」（北海道練乳）など、商品自体を宣伝する広告は一覧に載せなかったが、広告に北大内の「売店取扱い」の記載があった「サンエスインキ」は一覧に載せた。

II. 『北海道帝国大学新聞』の構成と広告の傾向

北大新聞の構成と掲載広告の傾向を、1920年代、1930年代、1940年代の3期間に分けて以下に示す。紙面数は基本的に4面であった。

II-1. 1920年代の傾向

北大新聞の創刊号は、第1面から第3面の途中までは創刊および創基50周年に関連した記事を、以降は第4面まで文武会各部の記事を割り付けている。この号は札幌市内の商店の広告を、第1面の下半分に8本、第2面の左下方に4本掲載している。いずれの広告も創刊か創基50周年を祝う文言を記載している。

第2号（1926年6月17日付）から第9号（1927年3月18日付）までは、多少割り付け位置が前後するものの第1面、第2面に全学的な情報を、第3面に文武会各部の情報を、第4面で随筆、評論、詩歌、風刺絵など学生の創作物を配置した。第10号（1927年4月22日付）は第3面と第4面を「第十号附録」と称して、入学生や入学試験についての記事に用いたが、この2面を除けば紙面は従来と同じ数である。この時期は当初、第1面か第4面、もしくは両方の面の下部に、5軒前後の商店の広告を掲載した。第7号で東京の出版社の広告が1本現れた以外は、いずれも札幌市内の商店である。広告の様子に変化が出てきたのは、第9号からである。前号である第8号（1927年2月18日付）に、変化の徴候が現れている。第1面に「広告係募集 詳細は三面」という文言があり、第3面には「広告主へ

一言」と題し、「従来五号活字一行卅五銭であつたのを廿銭に値下げすることにした」という記述がある。この値下げを受けてか、第9号では第1面に札幌市内の商店19軒分の広告が載り、第10号では第4面以外を使用して44軒の商店が名を連ねた。前述のとおり第10号は紙面の数自体は6面構成、かつ新入生が初めて目にする号でもあったため、広告が増えた要因は掲載料以外にもある。だが第11号(1927年5月18日付)以降の広告数が第8号以前に戻ったわけではないため、掲載料値下げが広告掲載について大きな転機であったことがわかる。この時期から、イラストとレタリングに趣向を凝らした広告が増えていく。

第11号から第14号(1927年8月18日付)までの構成は、特徴を掴むことが難しい。まず紙面数であるが、第11号、第12号(1927年6月13日付)は6面、第13号(1927年7月9日付)は4面、第14号は2面構成である。第11号から第13号までは、第1面がすべて広告で埋まっており、実質的には第2面から記事が始まっている。第11号は創刊1周年と、南鷹次郎・宮部金吾両名の退官という大きな事柄が重なるという事態が発生したため、記事の傾向をつかめない。第12号は使用した資料が第3面、第4面を欠いていたため確認ができず、こちらも判断ができない。共通することは、いずれも最終面に学生の創作物を掲載していることである。広告は第11号から、メーカーによる商品自体を宣伝する広告が出現した。「フルヤのミルクキャラメル」(古谷製菓工場)、「サッポロビール」である。またこの号以降、『模範六法全書』(三省堂)のような全国的な出版社の広告が、第1面のスペースを大きく使うようになり、以降の広告掲載の方向性が定まってきた。

第15号(1927年9月18日付)以降は、記事の構成と広告の傾向が固定してきた。第1面では評論や随想を割り付けている。執筆者は教官が多いが、学生や外部の学者も書いている。第2面には全学的な情報、第3面には文武会各部の情報、第4面には学芸欄という構成である。広告はほぼ全ての面の下部に掲載している。白抜きを活用した、インクを大量に消費するデザインの広告が定着したのはこの時期である。

Ⅱ－２．1930年代の傾向

第53号(1930年1月20日付)以降も、北大新聞の紙面の数に大きな変化はない。号外や一部の例外を除けば、従来と同様の4面構成である。ただし記事の割り付けには変化が見えた。第1面に学生や卒業生の書くものが増えていき、1931年にはほとんど学生の評論、体験記、漫談などになった。この時期、特に第74号(1931年4月20日付)から第81号(1931年9月21日付)にかけては、第1面がすべて広告で埋まるか、半分以上が広告で埋まるかのどちらかであった。昭和恐慌期のピークに重なるため、恐慌の影響の可能性はあるが、従来第1面に割り付けていた記事の掲載自体が第74号から第81号にかけて存在しないことが多いため、空いた紙面を埋めるための措置の可能性もある。もしくは構成変更の過渡期とこの時期が重なるため、割り付けの際に試行錯誤した結果の、一時的な変化であったのかもしれない。なお第81号は文武会三十周年を祝う内容であり、紙面も8面構成であったため例外的な号といえる。

1920年代末期から上記の時期にかけて、広告の内容に変化が見え、映画、麻雀、撞球のような学生向けの娯楽の広告が増えてきた。第1面に多く見える出版社の広告では北大の教官の著作を掲載するようになり、同じ書名を複数号に渡って見ることもあった。同時期、第1面または最終面といった、持つだけで目に入りやすい面に、百貨店の広告が増えた。特に第92号（1932年5月2日付）は、札幌三越が最終面すべてを使って広告を打った。第1面を1本の広告が占めたのは、戦前では他に例がない。以降、三越、今井呉服店、五番館、㊦百貨店の広告が急激に増加した。

北大新聞の構成ががらりと変わったのは、第106号（1933年2月21日付）からである。第106号以降、割り付け位置に多少の前後はあるものの第1面に全学的なニュース、第2面に特集、第3面に教官や学生の評論、第4面に学生の創作物や映画紹介といった構成になる。1933年半ばから百貨店の広告と、出版社の広告が減少傾向を見せ、札幌市内の商店の広告や、『恵迪寮史』（北海道帝国大学恵迪寮、1933年発行）や、共済会の取り扱う商品といった学内向けの広告も多く載るようになった。なお、札幌市内の商店の広告は、第2面から第3面に多い。一年を通して見ると、初夏にスズランの「内地送り」の広告が出たり、秋から冬にかけてストーブの広告が多くなったりと、季節を意識した傾向も見える。1920年代後半から1933年にかけては広告の入れ替わりが激しく、多くの商店の広告が現れては消えていった。

第123号（1934年3月20日付）から1934年の末頃まで、第1面を広告が再び覆い尽くすようになる。よって紙面構成も一時的に変わった。第2面と第3面に、全学的なニュース、特集、学生の評論や随筆が入り交じり、第4面を創作物のために割いている。第1面をすべて全国的な出版社の広告に費やしているためか、第2面以降の広告はほぼ札幌市内の商店の広告である。第123号は、前回大きく改変した第106号と同様、年度末の発行号であったため、この時期は毎年度末に構成の見直しを行っている可能性がある。

以降の新聞構成は、行幸のような大きな出来事がないかぎり、第106号の構成と、第123号の構成が入り交じる。広告の数自体が目立って減少し、広告を掲載する札幌市内の商店が定番化した。またインクを多く使用する白抜きを用いる広告が少なくなった。デザインを刷新することも減り、以前掲載した広告をそのまま用いている感がある。ただし映画館の広告は数が増え、スペースも大きく確保している。

第185号（1937年8月17日付）第1面では、「社告」と題して「二頁新聞に止めざるを得なきに至りました。その理由は一に世上の所謂『紙飢饉』であります」という記述とともに予定していた記事を次号に回したという説明をしている。したがって、この号と第186号（1937年9月14日付）は、変則的な事情で構成が崩れているのだが、あえてこのような謝罪文を掲載する点に、紙面数は基本的に4面という姿勢を保とうとしていたことがわかる。以降の号は紙の確保に成功し、4面以上の紙面を確保している。第106号の構成か第123号の構成であることにほぼ変わりがないが、第1面は出版社の広告が控えめになった代わりに、メーカーによる商品自体の広告や、札幌市内の商店の広告を掲載することも増

えてきた。しかし、日中戦争の長期化による食料の欠乏によるものか、飲食店、食料品店の名は著しく減少した。

Ⅱ－３．1940年代の傾向

紙面数はほとんど4面である。第1面は教官や学生のコラム、第2面に全学的なニュース、第3面は特集、第4面が創作物の構成である。第1面から全学的なニュースになったり、第3面から学芸が始まったりと、臨機応変に変化している。紙面からは写真や風刺絵が減少した。

1940年は再び出版社の広告が増えたが、戦争の激化に伴い広告の数自体は更に減って行く。第245号(1941年1月28日付)頃から、札幌市内の商店の広告が北大新聞からほぼ消えた。以降の札幌市内の商店は、1号につき1軒から2軒の割合で広告を掲載している。掲載する商店もさらに限定され、五番館、札幌メダル商会(元は札幌徽章商会)、札幌堂書店(元は札幌堂)でほぼ固定している。これら以外の広告は出版社かメーカーの広告がほとんどである。ただし1930年代までのようなスペースを多くとるものではなく、紙面の隅か記事と記事の間にある小さな広告であった。このように広告がほとんど姿を消した状態で、終戦を迎えたのである。

Ⅲ．『北海道帝国大学新聞』広告掲載商店の特徴

取扱商品や業種をもとに、広告掲載の商店について、その主な特徴を以下に示す。

(1) 書籍

金門堂書店、南陽堂書店、丸善札幌出張所(移転前は北8条西4丁目)のように、北大に近い書店は、広告に北大の教科書や参考書を扱っている旨を記載している。札幌堂書店、一誠堂書店、新川堂書店など、新刊書籍と中古書籍の両方を販売しているところもある。雑誌『山と雪』(山と雪の会)のような札幌市内の同好会が独自に出版した書籍や、一覧には記載していないが前掲『恵迪寮史』や文武会山岳部『北大山岳部部報』といった学内団体の書籍の広告もあった。

(2) 文房具

沢田商店、中野四郎商店、富貴堂書房、藤井商店、丸善札幌出張所などがある。今井呉服店、五番館、三越のような百貨店でも取り扱っていた。具体的な筆記具の名称としては万年筆がよく見え、植松専門店、坂野太泉堂、万年堂、吉川ウエル堂などがあつた。万年堂では「クラーク万年筆」を発売していた。これ以外にも、文房具は北大と紐づけした商品を扱っていることがある。維新堂書房では「クラークノートブック」を、藤井商店は北

大マーク入りのノートを発売した。藤井商店は大学構内の売店の営業を行っていたため、卒業論文用フールスといった特に学生向けの商品も扱った。

（3）印刷・製本

文武会新聞部御用達の文喜堂印刷所や、論文講義教材を扱う精巧社があった。また、広告自体には記載していないが、『恵迪』の印刷を扱ったことのある、山藤印刷や興文舎印刷所が広告を出すことがあった³⁾。山藤印刷は医学部学友会の機関誌『フラテ』や水産学科学友会の機関誌『親潮』を印刷したこともあり⁴⁾、印刷所と北大との関係は浅からぬものがある。文栄堂印刷所とアカシヤ書店では印刷と製本の両方を行っていた。このアカシヤ書店のように、書店が製本所をかねていることがある。南陽堂書店は1938年に製本部を増設している。この製本部は広告に「元北大図書館勤務岡田友太郎氏責任引受」と記載している。この他、専門で製本を行ったのは開林堂田中製本所、鳴臯堂がある。

（4）研究関係器具・機械・材料

亀山商会の取扱いは非常に多く、薬品、硝子製実験器具、動植物採集器、標本模型などを取り揃えており、剥製の製作も行っていた。藤本商会はキモグラフィオン、蓄電池、ポテンシオメーター、抵抗器を扱っている。北海標本社では昆虫植物採集用具、博物学標本模型、化学実験用玻璃器を扱っていた。化学薬品は薬局でも販売しており、斉藤薬局、石坂金次郎薬局がある。武藤器械店札幌支店では、聴診器、解剖器械のほか、レントゲン装置のような大がかりな装置も取り扱っている。本多商店札幌支店は鉱山用安全灯を、伊藤毛皮店では毛皮を、札幌農園では種苗をというように、商店ごとの専門性が見える。しかし、このような専門店以外でも、研究に関係のある商品を販売する商店があり、ユーセンドーでは顕微鏡を、カラタ洋家具店では実験台を取り扱っていた。製図器は金門堂書店でも扱っていた。

（5）運動用具

武道道具、体育器具を扱った藤井運動具店や、運動場整備も含めて取り扱うコタニ運動具店、北大各競技部御用の富貴堂運動具部、山岳用品専門のフジガ商店などがある。北海道という地域柄かスキーの取扱が多く、田村兄弟商会スキー部、中野商店スキー部といった、スキー専門の部門を設けている商店が複数ある。特に、コタニ運動具店はスキー制作部を革具部、金工部、服装部、木工部と更に細分化していた。この他、玉屋眼鏡店ではスキー用や雪中登山用の眼鏡を扱ったり、川中靴店や宮本商店といった衣料品店では運動靴や運動服を扱ったりと、専門店以外でも運動に関連する商品を販売することがあった。

（6）音楽用品

アカシヤ楽器店、三昭堂楽器店、富貴堂書房、フタバ楽器店で楽器や楽譜を取り扱った。

扱いのある楽器はピアノ、オルガン、ギター、ウクレレ、ハーモニカ、ヴァイオリン、マンドリン、チェロである。また一進堂商店にはコンサートルームがあった。ネヴォ喫茶店は1930年代を代表する名曲喫茶で、伊福部昭、三浦淳史、早坂文雄らが足を運んだ場であり⁵⁾、ここではレコードコンサートを実施した。また、稀な例ではあるが、新興邦楽会が尺八新会員募集の広告を打ったことがある。蓄音器やレコードは岩泉商会蓄音器部、岡崎商会蓄音器部、喜久屋、マスヤ、湯上蓄音器などが扱った。岩泉商会蓄音器部、岩泉蓄音器商会薄野支店では北大寮歌レコードを販売した。これは文武会音楽部が吹き込んだもので、北大恵迪寮歌「都ぞ弥生」および予科桜星会歌「瓔珞みがく」収録の、コロムビア製SPレコードである⁶⁾。

(7) 美術用品

額縁を扱った大観堂、野田製作所、絵の具を扱った銀嶺荘がある。今井呉服店では画材を扱う他、展覧会を行い、文武会美術部が美術展を開催することもあった。

(8) 衣料品

学生服を扱った赤塚洋服部、学生帽を扱った安部帽子店、学生靴を扱った川中靴店、白衣を扱ったコンノズボン店などがある。岩井靴店は予科講堂内に修繕部を設けていた。

また、衣料品のクリーニング取扱店として、五日市洗濯店、大室洗布所、佐藤洗濯店、蝶屋洗染工場、林クリーニング商会、三国屋クリーニング、山本ドライクリーニング工場がある。

(9) 徽章

徽章取扱店には、札幌徽章商会、末広屋商店、ライオン徽章商会札幌支店がある。

(10) 鞆

鞆販売店には、中村商店、丸善札幌出張所、丸富鞆店がある。

(11) 自転車

自転車販売店には、有田栄本店新設販売所、有田本店、小柳商会、佐藤自転車店などがある。佐藤自転車店は、長期休暇の間の自転車預かりも行った。

(12) 医療機関・医療品

内科医院の松本剛太郎、歯科医院の一戸清蔵、大森歯科医院、小山歯科医院などがある。また、三越では専門医による検眼を行った。

家庭用の医療品は、石坂金次郎薬局、一条薬局、いわしや薬局、斉藤薬局、札幌薬局、中央薬院、北辰堂薬局、渡辺薬局で処方調剤、体温計、衛生材料を扱っていた。

(13) 嗜好品

化粧品と煙草は、専門に扱う北都園の他、丸善札幌出張所、三越、㊤百貨店でも販売した。また、いわしや薬局、北辰堂薬局、渡辺薬局、一条薬局のような薬局でも多く扱っていた。

(14) 家具

安藤洋家具店、小熊家具店、カラタ洋家具店、塩入商店、千代田商会、三ツ星商会、㊤百貨店が家具を扱っていた。また、今泉撞球場でも家具製作を行っていた。

(15) 電気・家電製品

北海水力電気札幌営業部が電気の広告を打っている。ラジオは今井呉服店ラジオ部、沖電気札幌出張所、小山ラジオ商会、桜井商会、マスガタ商会、ラジオ電気商会北海道支店で扱っていた。沖電気札幌出張所は電鈴（呼び鈴）を、加本電気商店は照明器具を扱っていた。

(16) 暖房器具

池内金物店、弓削商店、石積売炭所札幌出張店、宮沢金物店など、燃料を使用するストーブの他、器具陳列所、北海道瓦斯ではガスストーブを、岩佐電気商会は電気ストーブを取り扱っている。また、若松商事では洋服や洋品の他に、ストーブとストーブシートを販売した。

(17) 時計

時計専門店には、梅沢時計店、ナイト時計店、三星時計店などがあった。三春フォトスタジオやヤサカ眼鏡店のように、専門店以外でも時計を扱う商店があった。

(18) 眼鏡

眼鏡は、アソツ屋商店、水野眼鏡商会、山本眼鏡店などが取り扱っていた。北大新聞第2号から継続して広告を打っていた水野眼鏡商会は、「水野眼鏡店」という名で現在も営業している⁷⁾。

(19) 寝具

寝具取扱店には、菊地布団店、小原商店、高田綿行、千代田商会がある。毛布は赤塚毛布部の他、若松商事、丸善札幌出張所、旭商会札幌出張部でも扱っている。

(20) 食料品

青果、乾物、漬物を扱った藤屋綿引商店は、恵迪寮購買室にも出店していた。果実を扱っ

たのは石田屋商店、及川商店、百留屋など。百貨店の今井呉服店、五番館、三越も食品を扱っていた。専門店は小林パン店、喜久屋コーヒー店、林屋茶店、六味もちがある。

21) 菓子

和菓子店には喜撰堂菓子舗、三八菓子舗、中屋菓子店が、洋菓子店には亀屋食品店、西村洋菓子店が、和洋生菓子店には愛信堂札幌支店、秋月菓子店、千秋庵菓子舗などがある。

22) 名産品

北海道の名産品は、五番館、今井呉服店、三越、⑨百貨店といった百貨店が扱っていた。今井呉服店と五番館の広告に出る頻度が多く、特に五番館は石狩新巻さけ、数の子、リング、利尻花折昆布、アスパラガスなど詳しい内容の広告を掲載している。

この他、石川商店、石田屋商店、百留屋、中村屋、山形屋食料品店、難波文具店、明治屋札幌出張所でリングや土産品を扱っていた。また、村上花園はスズラン、クロユリ、アツモリソウを扱い、根付きのまま「内地」へ輸送するサービスの広告を出した。

23) 飲食品

ミルクホールは、1920年代末期に佐伯ミルクホールや森永ミルクホールがあったが、1930年に入る前に姿を消した。喫茶店は、1930年頃までは飲料、菓子、サンドウィッチのような軽食を出すところがほとんどであった。たとえば、オアシス、ポプラ、ルビーといった店名の喫茶店がある。しかし、食事を出す喫茶店や、喫茶店と食堂を兼ねる店がだんだん増えていく。前者は肉まんじゅうを出したお坊ちゃん、ハムライスを出したネヴォ喫茶店、洋食を出したお好み亭など、後者は八千代食堂、松竹グリル、金鈴食堂、百留屋である。

カフェーは、大通からすすきの界隈に多かった。カフェーエルム、カフェーキネマ、カフェー三条、カフェーブラジル、カフェーボルガー、カフェーモスコーがある。カフェーエルムとカフェーモスコーでは、“美貌の娘”が接客していた⁸⁾。商店「白玉バー」は、当初、文武会園遊会御用の洋食店として広告を出したが、翌月に「カフェー白玉」になった。

食事が主体の料理店は、クラス会や宴会での利用を呼びかけた広告を出すことが多かった。洋食店はユーゴー亭（有合亭）、北大内に出張所を出していた豊平館があった。和食店は東おでん、たこ福、月見ずし、喜多一、菊寿司、米久肉店など数が多く、うどん、寿司、おでん、天ぶら、肉鍋を出した。中華料理店は、竹家、芳蘭、日華といった専門店の数は少なかったが、岡田屋本店、紀文茶屋、精養軒、ミカミなどで和食や洋食以外に中華料理を提供する店が多かった。また、中華料理を出す喫茶店も次第に現れ、秋月喫茶部、松島屋喫茶店があった。喫茶店であったミハトは、後に洋食と中華料理のレストランに変わった。

24 住居

主に広告を出したのは下宿で、石田、押田館、康友館、四国屋、桑栄館、ハウスクローバー、緑館、立身館があった。現在、下宿は旅館業法の対象であるが、この当時も秋田屋旅館、睦館、ラジオカルク温泉のように旅館が下宿を兼ねることがあった。また「渡辺」のような個人で営業する下宿もあった。貸間については、「大学に近く、閑静、勉学に最適」と宣伝した文化アパートメント札幌支部と永楽園があった。住居の保全面では、郡司精肉（後に郡司派出婦会として独立）が家事婦の派出を行った。

25 理髪

理髪店は、市内には、上原第四支店、シーク調髪室、清水理髪館、野沢北盛軒、ベラミー理容室、山川理髪店の他、百貨店の三越や㊦百貨店の中にもあった。大学内には北消会理髪部があった。

26 交通

札幌市電気局電車・自動車回数券を発売した中央薬院、乗合バスの札幌乗合自動車、自動車運転講習会の北海道協立自動車学校がある。札幌観江バス会社、札幌軌道会社のように、観光を宣伝した会社もあった。

27 写真

写真は、青木写真館、阿部写真館、岩井写真館のような専門の写真館の他、銀嶺荘、ナイト商会、藤井商店、文栄堂印刷所などでも扱っていた。記念撮影、出張撮影、夜間撮影、記念アルバム作成、証明写真作成を行う他に、北海写真工芸社のように研究用標本撮影を請け負う会社もあった。薬局でも写真材料を販売し、一条薬局、いわしや薬局、中央薬院、北辰堂薬局が取り扱っていた。

28 運送

札幌運送社と丸井運送店が、荷物運搬、引っ越しを行った。この2軒は同じ所在地にあり連名で広告を打っていたが、後にこの住所からは㊦札幌運送店という広告だけが出ているため、合併したか、札幌運送会社が閉業した可能性がある。

29 映画

映画館は、市内に、エンゼル館、三友館（後の日活館）、松竹座、宝瑩座（後の東宝映画劇場）、美満寿館があった。堀内商会活動写真部では出張映画や、映画貸付を行っていた。また、堀内商会活動写真部と北海タイムス社活動写真撮影部は、映画製作も行った。今井呉服店では映画会を開催したことがあった。

30 室内遊戯

麻雀の広告は、一筒倶楽部、札幌麻雀倶楽部、四喜閣、鉄北双雀倶楽部、平和麻雀倶楽部、紅雀倶楽部、麻雀荘朱雀、山鼻倶楽部が出している。ヤスノ茶房は1932年5月から麻雀を始め、同年10月にヤスノ麻雀荘の広告が出て以来広告が出ていないため、明記してはいるが業種変更した可能性がある。

撞球（ビリヤード）の広告は1930年前後に特に多く、交遊軒、ハジメ、ミヅホ、明治製菓売店、シマダ撞球場、ビリヤード・シロバラ、ススキノ撞球場などがある。下宿の広告を出していた能登屋でも撞球を扱っており、後に、のとや旅館撞球麻雀倶楽部になった可能性がある。

一方、伊藤撞球場は麻雀も行っていた。㊦百貨店にも、麻雀の中央倶楽部と博品館撞球場が階上にあり、五番館では麻雀の道具を販売した。

31 余暇

札幌温泉は温泉やピクニックの広告を出し、1円で市内自動車送迎を行った。登別温泉第一瀧本館は避暑や療養の広告を出し、青山温泉不老閣と定山溪鉄道とラジオカルク温泉は、温泉とスキーを結びつけた広告を出した。スポーツ場では1932年にサッポロベビーゴルフリンク、中島ベビーゴルフリンクの広告が集中し、1940年には藤ノ沢スキー場、真駒内スキー場の広告が集中している。

32 金融

北門銀行と日本生命札幌支店が広告を出している。

〔注〕

- 1) 北海道帝国大学文武会の機関紙。文武会は教官と学生の親睦団体であり、北海道帝国大学総長を会頭に置く、公的な性質を持ったものである。
- 2) 縮刷版である『北海道大学新聞』（第1巻～第3巻、大空社、1989年4月）を使用した。
- 3) 北海道帝国大学寄宿舍『恵迪』第13号（1923年7月）、『恵迪』第23号（1935年12月）の各奥付。
- 4) 『親潮』新年号（東北帝国大学札幌農科大学水産学科内オコック会、1913年6月）、『FRATE』第32号（北海道帝国大学医学部学友会、1936年12月）の各奥付。
- 5) 木部与巴仁『伊福部昭・音楽家の誕生』新潮社、1997年4月、113頁。
- 6) 井上高聡「「都ぞ弥生」のレコード吹き込み」（『えるむ』第138号、北海道大学学生委員会、2011年12月、30頁）。
- 7) 「水野メガネ」Webサイト（<http://www.miznomegane.com/>、2020年2月14日閲覧）。
- 8) 和田義雄『札幌喫茶界昭和史』財界さっぽろ、1973年8月、9頁・13頁。

3. 西村洋菓子店について

中村 美樹子

I. 西村洋菓子店の沿革

1929（昭和4）年、西村久蔵（初代社長）・真吉（二代社長）兄弟が、家業の牛乳屋（精乳舎）の業務不振を受け起業した¹⁾。当初は北海道物産館（北1条西4丁目駅前通り角）で営業していたが、札幌グランドホテル建設のため、1932年に店舗を札幌駅前札幌ビルに移転する²⁾。1936年小樽市に、1938年札幌市南1条3丁目に支店を開設する³⁾。しかし、戦時下における従業員の応召、材料の入手困難から1942年、水産加工に業務を切り替える⁴⁾。第二次世界大戦後も物資難が続いたが、1948年、洋菓子部門の業務を再開した⁵⁾。洋菓子のみならず和菓子の製造にも手を広げ、1952年に「まりも羊羹」の生産を開始した⁶⁾。1976年、聴覚障害者の社会参加促進を図り、鉄道弘済会の売店として「百円ケーキの店」を開店する⁷⁾。事業の低迷により、2003（平成5）年2月に破産宣告を受けたが⁸⁾、1977（昭和52）年に系列店として創業したニシムラファミリーが経営を引き継ぎ⁹⁾、2003年5月に業務を再開した¹⁰⁾。2018年5月、ニシムラファミリーが事業を停止し¹¹⁾、2020（令和2）年現在はどうさんこエナジー経営のもと「ニシムラファミリー」の名の店舗1軒が、千歳市で営業している¹²⁾。

II. 『北海道帝国大学新聞』掲載広告から見る戦前の西村洋菓子店

II-1. 西村洋菓子店の主力商品

1932年から、西村洋菓子店の広告が『北海道帝国大学新聞』（以下、「北大新聞」と略す）に現れる（図1）。当初の広告はサイズが小さく、簡素なレタリングと飾り罫線で構成されているものの、デザインを工夫したものであった（図2～図4）。具体的な商品名が広告内に登場したのは、1935年12月17日からである（図5）。この時の広告はシンプルながらも「CAKES」、「CHOCOLATE」、「COFFEE」と、子音の頭韻で揃えた洒落なデザインを用いている。だが「C」から始まらない「MILK」を「COFFEE」の末尾に追加しており、意図的に牛乳のことを記載しようとしている。翌年の初夏に出た広告は、デザインの方向性が図5と同じく「ICE COFFEE」、「ICE CREAM」、「ICE MILK」の商品名から、「ICE」の単語での頭韻を活用したデザインであったが、喫茶店の定番であるコーヒーと牛乳を同列に扱っている。以降、デザインの方向性が変わってもこれらの主力商品は変わらず、太字で強調することもあった（図6、図7）。この傾向は、西村洋菓子店の前身が牛乳屋だったためであろう。西村洋菓子店の起業は、余った牛乳を大量に消費するために

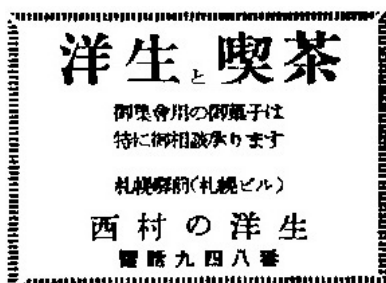


図1 1932年6月7日付の広告



図2 1932年8月2日付の広告

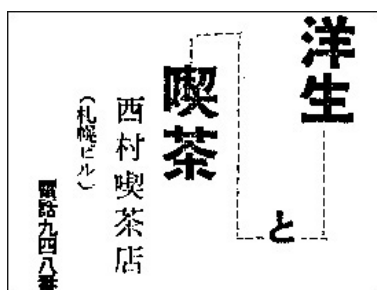


図3 1933年2月1日付の広告

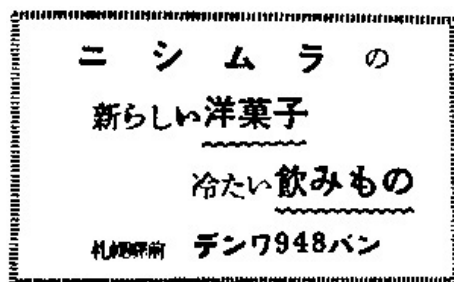


図4 1935年6月4日付の広告



図5 1935年12月17日付の広告

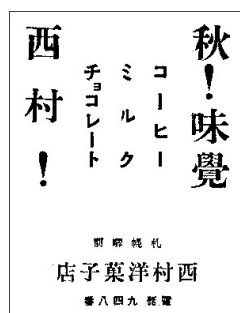


図6 1936年11月17日付の広告

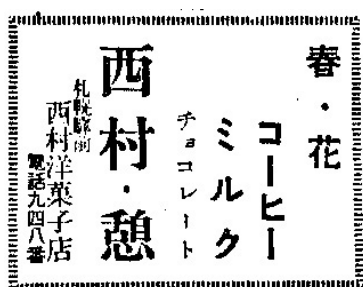


図7 1938年6月14日付の広告

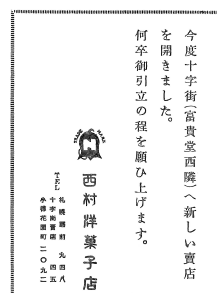


図8 1939年10月10日付の広告

洋菓子を思いついた西村真吉の提案に依拠する¹³⁾。また、『札幌喫茶界昭和史』（1973年発行）には、「六ツ十銭のドーナツと、一杯五銭のミルクが、若い人たちのこよなきオアシスとなった」¹⁴⁾と記述がある。これらの情報と北大新聞の広告の内容とを併せて鑑みると、喫茶店としての西村洋菓子店でも牛乳を重視していたことがわかる。

牛乳の他に具体的な商品名としては、チョコレートがよく現れる。これは1932年から西村洋菓子店で働いたロシア人技師のニコライ・ザハロフの影響である。彼はまずロシア風のケーキを、続いてチョコレートを紹介したが、特に後者の人気が出た¹⁵⁾。図5～図7の広告が出た時期は、チョコレートも人気商品として定着した時期であろう。

Ⅱ－２．西村洋菓子店の経営状態

北大新聞の広告掲載の頻度から、西村洋菓子店の営業状態を多少なりとも汲むことができる。北大新聞の初出は、1932年に札幌駅前へ移転した直後であり、以降1934年の終わりまで北大新聞は発行号の9割程度において西村洋菓子店の広告を掲載していた。このことから移転を契機に、西村洋菓子店が攻めの姿勢になったことがわかる。特に1935年の初めから1936年終わりの間の北大新聞は、全ての発行号で西村洋菓子店の広告を掲載した。この時期は前節で取り上げた図5、図6のデザインを用いた時期で、西村洋菓子店がザハロフという人材を得て人気商品を確立した時期とも重なる。

しかし1937年から1938年の間は、広告掲載の頻度は7割程度にまで減った。この時期の西村洋菓子店は支店を開設したもの（図8）、日中戦争により西村久蔵が出征し従業員からも応召するものが出始めた時期である¹⁶⁾。広告もキャッチコピーの部分で変化をつけようとはしていたものの、ほとんどは図7のデザインをそのまま用いていた。1939年から1940年の広告掲載頻度は3割程度に落ち込み、戦時下において製菓業を継続することの厳しさがわかる。第236号（1940年7月23日付）を最後に、西村洋菓子店の広告は戦前の北大新聞から姿を消す。この翌年、戦前の西村洋菓子店を支えたザハロフがロシアに強制送還された¹⁷⁾。

Ⅲ．北海道帝国大学関係の発行物と戦前の西村洋菓子店

西村洋菓子店は、戦前の北大新聞と同時期に他の北大関係の刊行物にも広告を掲載している。『北大文芸』、『桜星会雑誌』、『FRATE』である。同時期に大学内で発行された刊行物は他にも存在するが、確認できた範囲では西村洋菓子店が広告を掲載したのはこの3誌のみである。

『北大文芸』は、北大文武会文芸部が発行した部誌で、学生だけではなく教官も寄稿した発表媒体である。西村洋菓子店の広告が『北大文芸』に現れたのは1932年6月発行の第23号からで、北大新聞と同時期に掲載が始まっている（図9）。

『桜星会雑誌』は北大予科の文芸部が発行したものであり、こちらも教官との関わりが

洋生菓子と喫茶

御集會用には特に勉強致します

札幌 駅前
西村洋菓子店
電話 九四八番

図9 『北大文芸』第23号の広告

洋生菓子と喫茶

札幌 駅前
西村菓子店
電話 九四八番

図10 『桜星会雑誌』第29号の広告

CAKE AND MILK

西村の洋生

満洲國を旅行なさつた方は必ず彼の地のロシアチョコレートの変つた味を忘れられません。

今度弊店では、そのロシアチョコレートの本場のハルビンからザハロフ・ニコライ君を招んで毎日新しい生のロシアチョコレートを賣出すことになりました。

何卒一度御試食下さい。御値段も四百瓦(一〇七瓦)六拾五錢さいふ西村獨特の破格の價です。

札幌 駅前
西村洋菓子店
電話九四八番

図11 『FRATE』第27号の広告

深い。遅くとも1933年10月発行の第29号時点から西村洋菓子店が広告を掲載している（図10）。

『FRATE』は医学部学友会が発行した機関誌で、医界のニュースや展望、論説以外にも、会員の執筆する随想、文芸と幅広い内容を掲載していた。『FRATE』に西村洋菓子店の広告が出始めたのは、遅くとも1934年7月発行の第27号からである（図11）。

この3誌の共通点は、いずれも文学的な要素を持つということである。西村真吉は文学や芸術への志向が強く、1941年に『北方文芸』を創刊したメンバーの一人であり自身も創

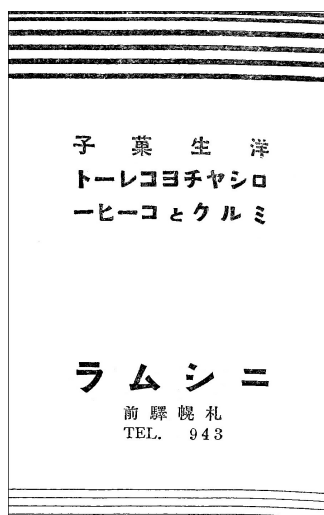


図12 『北大文芸』第33号（1936年10月）の広告

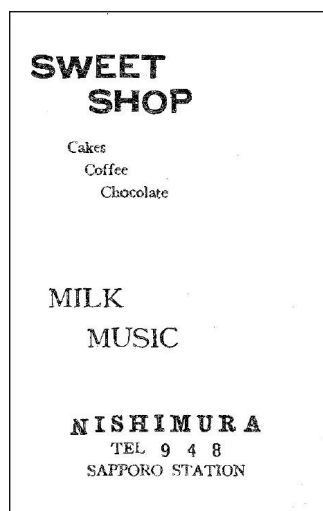


図13 『桜星会雑誌』第40号（1936年11月）の広告



図14 『FRATE』第32号（1936年12月）の広告

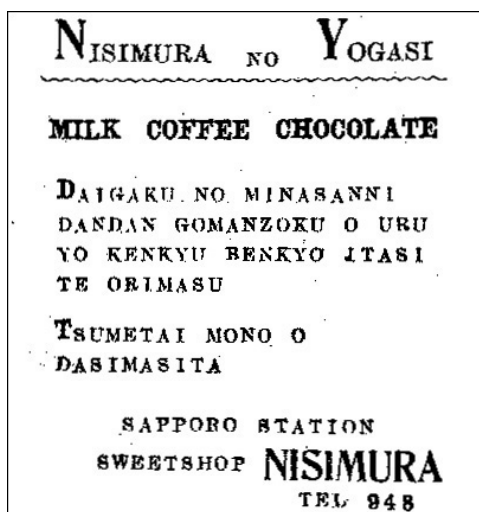


図15 1937年5月25日付の広告

作を手がけたが、スポンサーとして札幌の文化運動に寄与した人物でもある¹⁸⁾。戦前の札幌における文化面でのコミュニティが現在よりも限定的なもので、また知識人層として北大関係者が属していたことは間違いない。したがって発表媒体として、文学・芸術に造詣が深い西村真吉が北大関係の刊行物に関心を持った可能性は高い。事実、先に述べた『北方文芸』は、伊福部昭、河野広道、高倉新一郎といった、北大と関わりを持つ人間が少なからず参加しており、この時代の札幌の文化的なコミュニティと、北大関係者のコミュニティの一致率の高さを垣間見ることができる¹⁹⁾。

これを踏まえて、上記3誌の広告(図12～図14)と北大新聞の広告(図6)を見ると、掲載し始めの頃を除けば、同時期の広告でもデザインが重なることはない。掲載する情報も本科生(学部学生)には集会での利用を(図9)、予科生徒にはスキー帰りの利用を呼びかけているように²⁰⁾、それぞれの利用実態に合わせた内容にしようとしている。社会人になった同窓生も多く目にする『FRATE』では、人気商品であるチョコレートについて前節で取り上げたザハロフの名を出して価格についても詳しく解説しており(図11)、媒体ごとに読者層を把握し工夫をする程度には、西村洋菓子店が北大関係の刊行物に対し強い関心を持っていたことがうかがえる。

ここで北大新聞の広告に戻るが、第181号(1937年5月25日付)に西村洋菓子店はローマ字を使用して北大関係者への呼びかけの形で、以下の内容で広告を出している(図15)。

大学の皆さんに／だんだんご満足を得る／よう研究勉強致し／ております／冷たいものを／出しました²¹⁾

北大新聞でもこのような広告が出ている点も、西村洋菓子店が紋切り型の広告を使い回しているのではなく、北大関係の刊行物に関心を持ったうえでそのニーズに合わせた広告を掲載しようとしていたことの証左である。

【注】

- 1) 創業六十周年記念事業推進委員会『創業六十周年記念誌 愛・夢・そして未来へ おかげさまで六十年』(西村食品工業、1989年11月) 1頁・58頁。
- 2) 前掲『創業六十周年記念誌』5頁・139頁。139頁では「札幌市北二条西四丁目」とあり、住所の記載に異同がある。
- 3) 同上書139頁。
- 4) 同上書29頁・139頁。
- 5) 同上書46～48頁・140頁。
- 6) 同上書55～58頁。
- 7) 鉄道弘済会北海道支部「実践報告 聴覚障害者売店(百円ケーキの店)の歩み」(『社会福祉研究』第31号、鉄道弘済会社会福祉部、1982年10月、78頁～82頁)。
- 8) 「西村食品破産*老舗、また一つ消え*肩落とす「ニシムラ」社長」(2003年2月8日付『北海道新聞』朝刊)。「破産宣告」は、現行の破産法(法律第75号、2004年6月2日制定)における「破産手続開始の決定」に相当する。
- 9) 「おいしさは、愛 紡いでつないで90年 ニシムラファミリー」(『HO ほ』Vol.137、ぶらんとマガ

- ジン社、2019年2月、84～85頁）。
- 10) 「倒産「西村食品」の人気菓子＊「ユカたん」復活へ＊千歳の会社＊職員雇用、熱意実る」（2003年5月4日付『北海道新聞』夕刊）。
 - 11) 「ニシムラファミリー事業停止、自己破産へ」（2018年6月2日付『北海道新聞』朝刊）。
 - 12) 「ニシムラファミリー」Web サイト（<https://www.nishimurafamily.jp/>、2020年1月27日閲覧）。
 - 13) 前掲『創業六十周年記念誌』1～2頁。
 - 14) 和田義雄『札幌喫茶界昭和史』（財界さっぽろ、1973年8月）17頁。
 - 15) 前掲『創業六十周年記念誌』23頁・139頁。
 - 16) 同上書24頁・139頁。
 - 17) 同上書24頁・139頁。
 - 18) 北海道文学館『北海道文学大事典』（北海道新聞社、1985年10月）274頁。
 - 19) 木部与巴仁『伊福部昭・音楽家の誕生』（新潮社、1997年4月）409～410頁、前掲『北海道文学大事典』141頁、藤島隆「高倉新一郎先生著作目録（論文等篇）」（『北海学園大学学園論集』第137号、北海学園大学学術研究会、2008年9月、63頁～132頁）。
 - 20) 『桜星会雑誌』第34号（北海道帝国大学予科文芸部、1935年2月）129頁。
 - 21) 広告内の改行は／により表した。漢字は筆者が補った。

（なかむら みきこ／北海道大学大学文書館技術補佐員）

4. 豊平館出張所について

杉山 和香奈

I. 豊平館出張所の構内設置

豊平館は、現在の札幌市中央区大通西一丁目に、天皇行幸時の行在所として、開拓使が1880（明治13）年11月に竣工した建物である¹⁾。翌年11月6日には、「魁養軒」経営者の原田伝弥が建物の無償貸し付けを受け、館内で西洋料理店を開業した²⁾。『北海道帝国大学新聞』（以下、「大学新聞」と略す）に豊平館が掲出した広告は、戦前では、1926（大正15）年5月14日～1940（昭和15）年8月20日にみられる。広告からは、豊平館が大学構内に出張所を設けて食堂を営んでいたことがわかり、出張所の所在は「学生集会所」、「学生ホール」、「医学部学友会館」と記載されている。

「学生集会所」と「学生ホール」は、両者ともに「学生生徒控所」の通称である。学生生徒控所は、大学正門（北9条西5丁目）から入り向かって左手の場所に1924年11月に新築された2階建ての木造建物であった³⁾。新築当初の建物図面を見ると、1階に5部屋あり「生徒食堂」があったこと、2階に3部屋あり「生徒集会所」と「生徒控所」があったことがわかる⁴⁾。「酒は出されぬが繁昌する学生集会所／近来狭溢を感ず」と題した1928年9月3日付大学新聞3面の記事によると、学生生徒控所内の部屋は1号室から6号室まであり、1号室は「殆ど物置きに等しく」、2号室が食堂、3号室が学生集会に使用する部屋、4号室が新聞部の編集室、5号室が教授の使用する部屋で、6号室も3号室と同じく学生集会用の部屋として利用されていた。1930年5月5日付大学新聞2面に掲載された豊平館出張所の広告には、6号室が飲酒可能な日本間であると記載がある。学生生徒控所は、謝恩会や歓送迎会、県人会やクラス会、音楽講習会や音楽練習会など、教職員や学生生徒が団体で集会できる場所として利用されることが多かった⁵⁾。

「医学部学友会館」は、1925年10月31日新築の「医学部学生集会所」の通称である。医学部（1919年設置）の建物群は、1925年当時、現在の北13条通りの南側、北12条西6丁目あたりにあった。医学部学生集会所は、医学部門（現在の北11条西5丁目あたり）から入って正面の場所に位置していた⁶⁾。

また、大学新聞内の広告には見られないが、医学部学友会誌『フラテ』第29号（1935年7月発行）巻末に豊平館が掲出した広告には、前述の2か所（学生生徒控所、医学部学生集会所）のほかに「工学部職員食堂」と記載されている。豊平館が工学部（1924年設置）の建物内に出張所を設け、教職員専用の食堂を営んでいたことがわかる。「工学部に食堂／但し職員専用」と題した1932年5月17日付大学新聞3面に、「工学部職員食堂」は1932年5月11日に開設され、開設の目的は「従来の学生集会所内豊平館食堂からの料理運搬の不便を除くため」とある。1932年当時、大学構内は、南から北に向かって、農学部（1919

年農科大学を改称)、理学部(1930年設置)、医学部、工学部の建物が建ち並んでいた。キャンパス南部にある学生生徒控所内の出張所から教職員に出前を行っていた豊平館にとって、キャンパス北部に位置する工学部(北13条西8丁目あたり)の中に出張所を新設するほうが効率的であったと考えられる⁷⁾。以上から、豊平館は、①学生生徒控所、②医学部学友会館、③工学部の大学構内3カ所に出張所を設け、食堂を営んでいたことがわかる。

一方、豊平館出張所以外の食堂として、大学構内には、「中央食堂」(1921年11月新築、現在の北8条西8丁目あたり、1921～1929年財団法人協済会・1929～1932年北大消防会・1932年以降は文武会共済部の受託営業)⁸⁾、「医学部附属医院内食堂」(1921年10月医院新築、現在の北14条西5丁目あたり、財団法人協済会の受託営業)⁹⁾、「文武会共済部喫茶部」(1931年9月開設、学生生徒控所内、丸井今井商店の受託営業)があった。さらに、学生生徒控所の中には、「文武会共済部売店」(1931年4月開設、丸井今井商店の受託営業)もあり、食料品を販売していた¹⁰⁾。

Ⅱ. 価格表にみる豊平館出張所の営業内容

学生課作成の簿書「構内指定商人関係 自昭和二年度至昭和八年度」(帝国大学期簿書No0433、北海道大学大学文書館所蔵)には、豊平館出張所の1927、1929～1933年度の価格表(メニュー)が綴り込まれている(表1)¹¹⁾。表1からは、1930年度に「コーヒー」が5円から8円に、1932年度に「リボンシトロン及びナポリン」が19円から20円に値上がりした以外は、前年度と比べて同額か、値下げが行われていることがわかる。1931年度の豊平館出張所のメニュー価格も、市価より安かった(表2)¹²⁾。

また、1932年4月20日付で北海道帝国大学学生課宛てに豊平館杉山菊次郎が提出した文書「営業報告(売上) 自昭和六年一月至昭和六年十二月」には、次のとおり記載がある。

普通食堂(主トシテ学生)ニ於テハ

Bランチ、カレーライス、ハヤシライス、コーヒー及紅茶等

出前(主トシテ職員)

Aランチ、カレーライス、ハヤシライス、トーストパン等

豊平館出張所のランチの区分は、「Aランチ」は職員向け、「Bランチ」は学生向けであったことがわかる。表1から「Aランチ」は30銭、「Bランチ」は15銭で、Aランチの半値であった。

1932年6月7日付大学新聞3面の「工学部に中央食堂出張」と題された記事に、1932年5月に開設された工学部中央食堂(共済部経営)¹³⁾では、職員用に20銭弁当、学生用に13銭のランチを提供すると記述がある。

以上のことから、豊平館出張所のメニューは職員用と学生用で区別されており、価格も学生用のほうが安価に抑えられていたことがわかる。豊平館杉山菊次郎が提出した文書と共済部中央食堂に関する新聞記事とを照らし合わせると、当時の学生が利用しやすい価格帯は13～15銭だったと推察できる。

表1 豊平館出張所の価格 (1927、1929-1933年度)

品名／年度 (銭)	1927	1929	1930	1931	1932-1933
A食／A定食／定食A	100	100	100	100	100
B食／B定食／定食B	50	50	50	50	50
カレー／カレーライス	25	25	20	15	15
ハヤシライス	30	30	25	20	20
チキンライス	40	40	35	35	30
親子丼	40	40	40	33	30
天丼	30	30	30	20	20
カツレツポーク／ポークカツレツ／カツレツポーク	30	30	30	25	25
ビフカツ／ビーフカツレツ／カツレツビーフ	35	35	35	30	30
チキンカツ／チキンカツレツ／カツレツチキン	40	40	40	35	35
ビーフステーキ／ビーフステーキ／ビーフステーキ	40	40	40	35	35
チキンロース／チキンロースト／ローストチキン	40	40	40	35	35
フライ／魚フライ	30	30	時価(約30)	時価(約25)	時価(約25)
パン	10	10	10		
トーストパン				8	
ジャムパン				8	
トーストパン (バターあるいはジャム)					8
牛乳	5	5	5	4	4
紅茶	5	5	5	5	5
コーヒー	5	5	8	7	7
シトロン／リボンシトロン及びナポリン	25	25		19	20
洋食弁当			35		
弁当A／Aランチ				30	30
弁当B／Bランチ				15	15
牛丼			35	30	25
ポークロースト／ローストポーク			35	28	25
ビーフロースト／ローストビーフ			40	35	30
ハムエッグス			40	時価(約35)	時価(約35)
ベーコンエッグス			40	時価(約35)	時価(約35)
ハムサラダ／ハムサラダ			40	30	30
オムレツ			30	時価(約20)	時価(約20)
ヴェジエタブルサラダ／野菜サラダ			時価(約30)	時価(約25)	時価(約25)
アスパラガス			30	時価(約20)	時価(約25)
サンドイッチ			40	30	30
ポークチャップ				28	25
ポークソテー	35	35			
ハムライス			35		
ビーフシチュウ			35		
チキンシチュウ			40		
チキンソテー			40		
メンチボール			30		
洋菓子			8		
アイスクリーム			20		
ソーダ水			12		
フレッシュ			25		
平の水			25		
フライポテト				時価(約15)	
コキール (チキン)				25	
グラタン (フィッシュ)				20	
グラタン (マカロニ)				20	
ラーメン				10	
御飯					8

[注] (1) 品名が年度によって異なる場合は「／」で変遷を表した。

(2) 該当品名の記載がない年度は、空欄とした。

III
話
ヒ
で
の
か
主

III
認
ビ
で
の
が
主

認
ビ
で
の
か
主

認
ビ
で
の
か
主

主 力

1



よると、学生生徒の指導監督を掌る学生主事から「値段をもっと安くしなければ学内の食堂は大学直営にする」と指導を受け、カレーライスを25銭から20銭、ハヤシライスを30銭から25銭、チキンライスを40銭から35銭に値下げしたとある¹⁶⁾。1930年5月5日付の新聞2面に掲載された広告が図2である。値下げを告知すると同時に、学生生徒控所内の食堂は「学生諸君の会合を催すべき所であり同時に最も便宜に最も廉価に料理を供給する食堂でもあります」と文章を添え、学生の実用に見合う旨を強調している。

一方、文武会共済部は1931年4月10日に売店を、同年9月1日に喫茶部を開業した。売店は学生生徒控所内にあり、学用品を始め洋品雑貨、菓子類、靴等の多種多様な商品を販売した。1931年4月6日付大学新聞2面には売店の開業を伝える記事が載り、「十銭弁当」が取り上げられ、「時季柄利用も大きいことであらう」と講評されている¹⁷⁾。学生が安価な食事の提供を特に重視していたことが伺える。

喫茶部については、開業直後の様子が1931年9月7日付大学新聞3面の「ミルクホールが出来ました／共済部売店の姉妹店」と題した記事で報じられている。この記事によると、場所は学生生徒控所2号室で、豊平館出張所と同室であった。一つの部屋に2店舗が同居する形となり、豊平館出張所のBランチと共済部喫茶部のコーヒーといったように、注文を組み合わせることもできた。共済部開業の影響について豊平館出張所が新聞部のインタビューに答えた記事によると、喫茶部のメニューはデザート類や飲料が中心で豊平館出張所と類似していないため、売り上げが目立って下がることは無かったという¹⁸⁾。

また、1932年5月、中央食堂の経営が北消会から共済部へ移り、売店や喫茶部とは異なる、共済部の本格的な食堂営業が始まった¹⁹⁾。「昭和八年二月現在値段表／共済部」(帝国大学期簿書0043収録)から食堂及び喫茶部のメニューと推定されるものを抜き出し、同時期の豊平館出張所の価格と比較すると、表3のとおりである²⁰⁾。表3から、共済部の経営する食堂の方が、豊平館出張所と比べて安価であることがわかる。

共済部経営の店舗(売店、喫茶部、中央食堂)は、商品価格の安さから学生の好評を得ていたが、一方で商品の質や量といった点では批評されることも多かった。次にあげるのはいずれも1932年の大学新聞投書欄に寄せられた中央食堂に対する批評である。1932年9月20日付大学新聞1面の「学生論壇／中央食堂に対する注文」では、中央食堂は料理の種類が少なく、調理方法と配膳の仕方が悪いとしている。その上で、学外には「十二銭で飯でもおかずでも質的にも量的にもずっとすぐれてゐる」食堂があると、学外の優良な食堂と比較している。また、1932年10月4日付大学新聞1面の「学生論壇／我々の親しいランチに」では、日常的な家庭料理のおかずや白飯の増量を求めて、ランチの内容を肉料理や洋食のような贅沢品ではなく、「我々が下宿から貰ってくる弁当のおかずのやうなもの」にして、「その代りめしをもう少し多くして」欲しいと希望している。

一方、豊平館出張所に対しても、白飯の量が問題にあげられ、「飯の量が少なくなった様な気がする」と指摘されている²¹⁾。こうした学生の要望は、広告の文章にも反映された。図3は1934年11月19日付新聞4面に豊平館出張所が掲出した広告である。

表3 共済部営業店と豊平館出張所との価格（1933年2月）

品名／店名（銭）	中央食堂、喫茶部	品名／店名（銭）	豊平館出張所
コーヒー	5	コーヒー	7
紅茶	5	紅茶	5
ミルク	3	牛乳	4
ランチ（並）	13	Bランチ	15
ランチ（出前並）	15	Aランチ	30
ランチ（出前上）	20	カレーライス	15
カレーライス	10	ハヤシライス	20
ハヤシライス	15	チキンライス	30
チキンライス	20	トーストパン （バターあるいはジャム）	8
トーストパン	5	サンドイッチ	30
サンドウィッチ	20		
カツ丼	15		
親子丼	20	親子丼	30
オムレツ	15	オムレツ	時価（約20）
コロッケ	10		
ボークカツ	15	カツレツボーク	25
ケーキ	5		
ソーダ水	7		
しるこ	5		
なべやきうどん	10		
支那そば	10		
パイ	10		

〔注〕 対応する品名の記載がない場合は、空欄とした。

1927年以降代表的なメニューであった「一円定食」の記載が無くなり、「Price／Volume／Taste／三拍子揃ったA&B-Lunch」の記載に変わっている。表1から、「一円定食」は「A定食」、「A&B-Lunch」は「Aランチ」（30銭）と「Bランチ」（15銭）を指すことがわかる。メニュー中最も高価な定食よりも割安なランチの需要が増したこと、価格の安さ、量、味の良さの三点が食堂利用者に求められていたことが読み取れる。

1938年、豊平館出張所は、一部メニューの定価を改正した。その告知広告が、5月10日付大学新聞4面に掲載された広告（図4）である。この広告の価格と表1の1933年度価格とを比べると、紅茶は5銭から6銭へ、コーヒーは7銭から8銭へ、Bランチは15銭から16銭へそれぞれ値上げされた。同日付の大学新聞3面の記事「学内食堂も愈よ近く値上げ」では、この値上げについて「集会所に於ける諸会合の際のコーヒー、紅茶各一銭騰貴等食堂利用者には相当手痛い話である」と述べている。1930年に掲出した広告（図2）では学生の会合のために廉価で食事を提供することを使命としていた豊平館出張所が、会合の用途に関わる品目であっても値上げを行ったことから、物価高による原料費高騰のため、やむを得ない値上げであったことがわかる。

同じく1938年、共済部の中央食堂もランチなど4品目の値上げを行った。1938年10月11

日付大学新聞3面の「止むを得ずとして中央食堂値上げ／弁当持参者一段と増加か」と題された記事では、すでに13銭から15銭に値上がりしていたランチ（並）が更に16銭となることを報じている。

豊平館出張所に対する1938年当時の学生からの意見を見てみたい。前述の1938年5月10日付大学新聞3面記事には、「ランチなどは更に一段品質を下げたCランチとでも云ふものを十二銭位で作れないものであらうか、工場等の給食が十銭内外で相当立派な質とヴォリュームを持してゐる点など参考とすべきであらう」という意見が掲載されている。10銭前後で量・質共に満たしている工員向けの給食を持ち出して、12銭程度のCランチの新設を要望しているのである。

Price
Volume
Taste

三拍子揃った

A & B-Lunch

洋食各種

應御用命

學生ホール内 豊平館出張所

図3 A & Bランチの推奨広告 (1934年)

平素格別の御厚情を深謝候
陳者今般原料の奔騰により止むを得ず来る五月十五日より當局の
御許可の下に左記の通り定價改正仕り候間何卒此段御諒察の上引
續き御引立の程願上候
昭和十三年五月十日

謹告

學内豊平館食堂出張所
杉山正次

二八六六八 十
錢錢錢錢錢錢錢錢

図4 定価改正を告知する広告 (1938年5月)

美味・低廉

Pork-catlet
Hashed-rice
Chickin-rice

A&BLunch

洋食各種

應御用命

學生ホール内 豊平館出張所

図5 宣伝文句の変更後の広告 (1938年)

また、1938年10月11日付大学新聞3面の読者投稿欄「よしのずいから／食堂月旦」では、豊平館出張所は共済部に先んじて値上げしたが、副菜物や肉などの量が少なく、鮮度にも疑問があると批判されている。供される料理の量は、学生にとって重大であった。

1938年12月20日付大学新聞2面に豊平館出張所が掲出した広告（図5）では、「Price／Volume／Taste」の宣伝文句が「美味、低廉」となり、学生からの批判的な意見が多かった“量”が宣伝文句から消えた²²⁾。“価格・量・味”の三点を維持するのは困難となった状況が見受けられる。

むすび

豊平館出張所は、1924年に学生生徒控所内で開業し、主に教職員や学生生徒の集会を目的として利用された点に特色があった。

メニュー価格については、物価高の影響を受ける1938年まで値上げをほとんどせず、市価と比べても安く設定していた。しかし、1931年に文武会共済部が発足し、安価なメニューを提供する喫茶部や中央食堂等が開業すると、これらと比較して、豊平館出張所は高価なイメージがつくようになった。大学新聞紙上の豊平館出張所の広告は、共済部食堂の価格に関する動向や、学生の経済事情、料理の量を重視する学生の要望など、その当時の学内状況を如実に反映したものであった。

下宿で供される和食弁当に慣れ、肉料理や洋食を学内の食堂で食べることが「ぜい澤」だと言う学生の声があるように²³⁾、豊平館出張所は学生にとって高嶺の花であったと言える。

〔注〕

- 1) 札幌市教育委員会文化資料室編『さっぽろ文庫15 豊平館・清華亭』札幌市、1980年、10及び13ページ。
- 2) 同上書、16ページ。
- 3) 建物名は『北海道大学所属国有財産沿革』十二分冊の内其一「本部」（北海道大学事務局施設課、1956年）を参照。学生生徒控所の食堂は、建物が竣工した1924年11月から1927年3月までは、財団法人協済会の経営のもと豊平館の杉山菊次郎が食事を提供していたが、1927年4月以降は経営も豊平館に移った（1927年4月6日付「学生生徒控所内飲食物供給経営二関スル件」、北海道帝国大学学生課「構内指定商人関係 自昭和二年度至昭和八年度」、帝国大学期簿書No0433、北海道大学大学文書館所蔵。以下、「帝国大学期簿書0433」と略す）。
- 4) 北海道帝国大学営繕費新営工事設計図面「畜産学実験室外六廉新営工事／大正十三年度／学生生徒控所之部」、No施設部 AP2015-0196、北海道大学大学文書館所蔵。
- 5) 「学生生徒控所の利用に就て／階下一号室利用の少きは遺憾」（1927年2月18日付『北海道帝国大学新聞』4面）、「酒は出されぬが繁昌する学生集会所／近来狭溢を感ず」（1928年9月3日付『北海道帝国大学新聞』3面）。
- 6) 建物名・所在地は『北海道大学所属国有財産沿革』十二分冊の内其四「医学部、附属病院、納骨堂、

登別分院」を参照。

- 7) 工学部所在地は『北海道大学所属国有財産沿革』十二分冊の内其六「工、文、法、経済、教育、獣医各学部、低温、触媒、応用電気、結核研究所、教養部」を参照。出前の事実には1932年4月20日付学生課宛て豊平館杉山菊次郎「営業報告(売上) 自昭和六年一月至昭和六年十二月」(帝国大学期簿書0433収録)に拠る。
- 8) 「中央食堂」は通称、建物名は「食堂」。建物名は、北海道大学125年史編集室編『写真集北大125年』(北海道大学、2001年、23ページ)を参照。受託営業の変遷は、1927年11月21日付『北海道帝国大学新聞』4面への財団法人協済会掲出の広告、1929年4月15日付『北海道帝国大学新聞』3面記事「北消会の活躍」、1932年2月1日付『北海道帝国大学新聞』3面記事「中央食堂と理髪店跡に共済部で食堂を経営／準備なれば四月から断行の予定」、1932年6月7日付『北海道帝国大学新聞』1面記事「公開論壇／ランチ回数券を」に拠る。
- 9) 建物名・所在地は、前掲『北海道大学所属国有財産沿革』十二分冊の内其四を参照。受託営業は1927年11月21日付『北海道帝国大学新聞』4面広告に拠る。財団法人協済会は、医学部附属医院の開院に伴い、職員・学生・入院患者に便宜を図ることを目的として1921年11月に発足した(『財団法人協済会一覧 大正十四年八月』、1925年、1ページ)。
- 10) 「共済部愈店開き／百般の必需品を揃へて丸井が委託販売に当る／四月十日からホールで営業を開始」(1931年4月6日付『北海道帝国大学新聞』2面)、「ミルクホールが出来ました／共済部売店の姉妹店」(1931年9月7日付『北海道帝国大学新聞』3面)。文武会共済部は、大学内の全ての教職員・学生・生徒を会員とし、1931年4月に発足した。その目的は、会員の「経済的互助」であり、具体的な事業として、(1) 購買事業(委託形式)、(2) 利用設備の供給、(3) その他必要と認められる事業を行った(北海道帝国大学文武会『文武会紹介 昭和十五年四月』、1940年、34-36ページ)。
- 11) 表1は、帝国大学期簿書0433収録の以下の文書(1)～(6)中の販売物品値段表をもとに作成した。(1) 1927年3月30日付北海道帝国大学総長宛て豊平館杉山菊次郎「継続願」、(2) 1929年4月1日付総長宛て豊平館杉山菊次郎「営業継続願」、(3) 1930年4月1日付総長宛て豊平館杉山菊次郎「営業継続願」、(4) 1931年4月1日付総長宛て豊平館杉山菊次郎「継続願」、(5) 1932年3月22日付総長宛て豊平館杉山菊次郎「営業継続願」、(6) 1933年3月9日付総長宛て豊平館杉山菊次郎「営業継続願」。
- 12) 表2は、「昭和六年度ニ於ケル経営者別営業成績表」(1932年4月11日付総長宛て文部省学生部長文書「販売部、購買部又ハ之ニ該当スル諸施設ニ関スル件」、帝国大学期簿書0433収録)をもとに主要品目を一部抜粋して作成した。
- 13) 前掲『文武会紹介 昭和十五年四月』、35ページ。豊平館の工学部職員食堂に対して、学生も利用できる食堂として開設された。
- 14) 1927年度販売物品値段表(1927年3月30日付総長宛て豊平館杉山菊次郎「継続願」、帝国大学期簿書0433収録)。「A食」の「献立」欄に「パン一切、スープ一皿、コーヒー杯、肉三皿、菓物一個」と詳述されている。
- 15) 前掲『文武会紹介 昭和十五年四月』、34-36ページ。
- 16) 「学生主事」については、「北海道帝国大学官制」(1918年3月30日勅令第44号)第四条(『北海道帝国大学一覧 昭和五年』、1930年、53ページ)を参照した。
- 17) 「共済部愈店開き／百般の必需品を揃へて丸井が委託販売に当る／四月十日からホールで営業を開始」(1931年4月6日付『北海道帝国大学新聞』2面)。
- 18) 「共済部の反響をきく／紙とペンを持って商店の戸口を叩く」(1931年11月2日付『北海道大学新聞』3面)。
- 19) 「中央食堂と理髪店跡に共済部で食堂を経営／準備なれば四月から断行の予定」(1932年2月1日付『北海道帝国大学新聞』3面)、「公開論壇／ランチ回数券を」(1932年6月7日付『北海道帝国大学新

聞』1面）。

20) 共済部中央食堂及び喫茶部については、「昭和八年二月現在値段表／共済部」（帝国大学期簿書0043収録）、豊平館出張所については1932年度販売物品値段表（1932年3月22日付総長宛て豊平館杉山菊次郎「営業継続願」、帝国大学期簿書0433収録）を参照した。

21) 「学生論壇／中央食堂に対する注文」（1932年9月20日付『北海道帝国大学新聞』1面）。

22) 広告の内容が変更されたのは1938年11月22日付大学新聞4面からだが、ポークカツレットの綴りが「Poak-cwtret」と誤記載されている。そのため、綴りが「Pork-catlet」に訂正された後の同年12月20日付広告を図5として引用した。

23) 「学生論壇／我々の親しいランチに」（1932年10月4日付『北海道帝国大学新聞』1面）。

（すぎやま わかな／北海道大学大学文書館技術補佐員）